

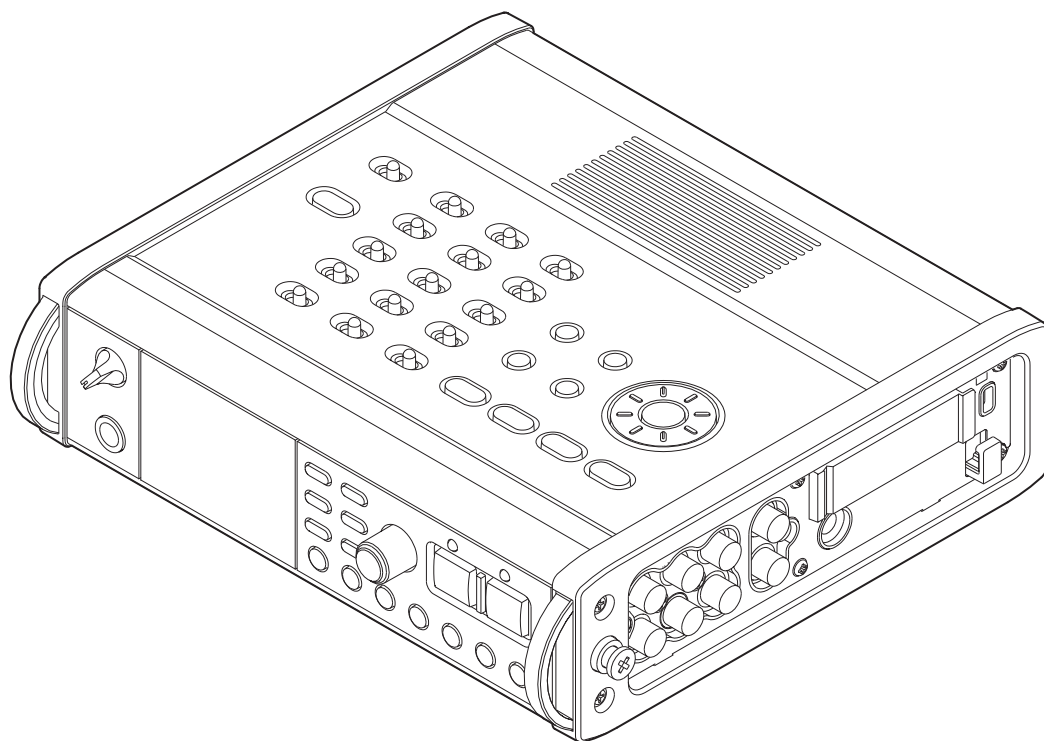
TASCAM

D01252201A

DR-680MKII






Portable Multitrack Recorder




取扱説明書



安全にお使いいただくために










製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

 警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	
 電源プラグをコンセントから抜く	<p>万一、異常が起きたら 煙が出た、変なおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて ください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に修理をご依頼ください。</p>
 禁止	<p>ACアダプターのコードを傷つけない ACアダプターのコードの上に重い物をのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない ACアダプターのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、ACアダプターのコードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）をご依頼ください。</p>
	<p>付属のACアダプターや電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p>
	<p>交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。 この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災・感電の原因となります。</p>
 指示	<p>ACアダプターの電源プラグにほこりをためない ACアダプターの電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。定期的（年1回くらい）にACアダプターの電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 分解禁止	<p>この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご依頼ください。</p>
	<p>この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。</p>

	<p>注意 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切り、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となる場合があります。</p>
 <p>指示</p>	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。また、モニター機器などの破損の原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、ACアダプターの電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐにACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の専用ACアダプターや電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災・感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>ACアダプターの電源プラグを抜くときは、ACアダプターの電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>濡れた手でACアダプターの電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。</p>
 <p>注意</p>	<p>5年に1度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。</p>

電池の取り扱いについて

本機は、電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどを避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

 警告 乾電池に関する警告	
 禁止	乾電池は絶対に充電しない 破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。
 警告 電池に関する警告	
 強制	電池を入れるときは、極性表示（プラスとマイナスの向き）に注意し、電池ケースに表示されている通りに正しく入れる 間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	長時間使用しないときは電池を取り出しておく 液が漏れて火災・けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースに付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一漏れた液が身体に付いたときは、水でよく洗い流してください。
 禁止	指定以外の電池は使用しない 新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない 破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損することがあります。
	炎天下の車内や暖房器具のそばなど、温度が高くなるところで保管しない 本体の変形によるショートや発火、故障、電池の劣化の原因となります。
 注意 電池に関する注意	
 禁止	金属製の小物類に携帯、保管しない ショートして液漏れや破裂などの原因となることがあります。
 分解禁止	分解しない 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。
 注意	保管や廃棄をする場合は、他の電池や金属の物と接触しないようにテープなどで端子を絶縁してください。
	使い終わった電池は、電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村の廃棄方法にしたがって捨ててください。

安全にお使いいただくために	2	第4章 録音	25
電池の取り扱いについて	4	ファイルとテイクについて	25
第1章 はじめに	7	録音の設定を行う	25
本機の概要	7	録音ファイルフォーマットを設定する	25
本製品の構成	7	サンプリング周波数を設定する	26
本書の表記	8	録音ファイルモードを設定する	26
商標および著作権に関して	8	ステレオトラックの録音設定をする	27
SDカードについて	8	レコードファンクションを変更する	27
取り扱い上の注意	8	録音一時停止後の録音設定をする	27
設置上の注意	9	録音するテイク名を設定する	28
結露について	9	ユーザーワードの編集をする	28
製品のお手入れ	9	テイク名の番号の初期化	29
ユーザー登録について	9	録音可能時間表示	29
アフターサービス	9	テイクの保存先を設定する	29
第2章 各部の名称と働き	10	接続をする	29
トップパネル	10	入力の設定をする	30
フロントパネル	11	入力ソースの選択をする	30
左サイドパネル	12	ファントム電源について	30
右サイドパネル	13	トラック5 / 6の録音ソースを選択する	31
ボトムパネル	14	入力レベルを調節する	31
ホーム画面	15	録音する	32
メニューの構成	16	ステレオミックスを録音する	33
メニューを使う	17	異なる入力レベルで同時に	
操作の基本	18	2系統の録音をする (DUAL REC)	34
ファンクション画面	18	デュアル録音の設定をする	34
リピート設定	18	デュアル録音を開始する	34
プリレック設定	18	デュアル録音時のテイク名	34
自動録音設定	19	ソロ機能を使う	34
DIN / MIXモニター設定	19	録音を自動で開始 / 一時停止させる (オートレック)	35
リミッター設定	19	オートレック機能を使う	35
ローカットフィルター設定	19	オートレック機能の設定	35
第3章 準備	20	録音中に自動で不要な無音部分をカットする	
電源の準備	20	(サイレントカット)	35
電源について	20	録音を自動で再開した位置にマークを付ける	36
単3形電池で使用する	20	トラックインクリメント	36
ACアダプターで使用する	20	録音中に手でトラックインクリメントする	36
コンセントプラグの交換方法	21	ファイルサイズで自動的に	
電源を入れる / スタンバイ状態にする	21	トラックインクリメントする	36
電源を入れる	21	リミッターを使う	37
電源をスタンバイ状態にする	21	ローカットフィルターを使う	37
SDカードを挿入する / 取り出す	22	ローカットフィルターのオン / オフ設定	37
SDカードを挿入する	22	ローカットフィルターのカットオフ周波数設定	37
SDカードを取り出す	22	マーク機能	38
SDカードを使えるようにする	22	録音中 / 再生中に手でマークを付ける	38
SDカードのライトプロテクトについて	22	マークの位置への移動	38
日時を設定する	23	マークの削除	38
内蔵スピーカーの出力をオン / オフするには	23	録音開始の少し前から録音する (プリレック)	38
モニター用機器を接続する	24	録音時間について	39
ディスプレイのコントラスト調節	24	第5章 テイクやフォルダーの操作 (BROWSE画面)	40
		BROWSE画面内のナビゲーション	40
		BROWSE画面内のアイコン表示	40
		テイク操作	40
		フォルダー操作	41

目次

第6章 再生	42	第12章 仕様	59
再生する.....	42	定格.....	59
停止する.....	42	入出力定格.....	59
一時停止する.....	42	アナログオーディオ入出力定格.....	59
早戻し/早送りをする(サーチ).....	42	デジタルオーディオ入出力定格.....	60
再生するトラックを選択する(スキップ).....	42	コントロール入出力.....	60
再生位置を移動する.....	42	オーディオ性能.....	60
マルチトラックをミックスして出力する.....	43	一般.....	60
内部ミキサーでミックスする.....	43	寸法図.....	61
ソロ機能を使う.....	43	ブロックダイヤグラム.....	62
ステレオトラックを再生する.....	44		
再生範囲を設定する.....	44		
BROWSE画面を使って			
再生範囲のフォルダーを選択する.....	44		
サーチスピードを設定する.....	45		
繰り返し再生する(リピート).....	45		
第7章 パソコンと接続する	46		
パソコンへファイルを取り出す.....	47		
パソコンからファイルを取り込む.....	47		
パソコンとの接続を解除する.....	47		
第8章 カスケード接続	48		
カスケード操作の準備.....	48		
カスケード録音をする.....	48		
カスケード再生をする.....	48		
カスケード操作を止める.....	48		
カスケード接続時の注意.....	49		
第9章 各種設定および情報表示	50		
MSマイクデコード機能を使う.....	50		
MSマイクを接続する.....	50		
MSデコードモードを設定する.....	50		
MSデコードして録音する.....	50		
複数チャンネルを同時に設定する(GANG).....	51		
出力設定.....	52		
アナログ出力設定.....	52		
デジタル出力設定.....	52		
システム設定.....	53		
電源のオートオフ設定.....	53		
バックライトのオートオフ設定.....	53		
カスケードの設定.....	53		
ロック機能範囲の設定.....	53		
電池の種類の設定.....	53		
初期設定に戻す.....	54		
システム情報を見る.....	54		
SDカードをフォーマットする.....	54		
カード情報を見る.....	55		
第10章 メッセージ	56		
第11章 トラブルシューティング	58		

このたびは、TASCAM Portable Multitrack Recorder DR-680MKIIをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、未永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) からダウンロードすることができます。

本機の概要

- 24ビット96kHzで8トラックの録音が可能 (6アナログ入力+ステレオミックス、または6アナログ入力+デジタル (ステレオ) 入力)
- 24ビット192kHzで2トラックの録音が可能
- 録音/再生メディア:SD/SDHC/SDXCカード (128GBまで)
- 異なるレベルで2系統の録音が同時に行えるデュアル録音 (3トラックx2)
- 録音/再生フォーマット: BWF、WAV、MP3
- MP3フォーマットの4トラック録音が可能
- サンプリング周波数: 44.1k/48k/96k/192kHz
- 量子化ビット数: 16/24ビット
- 96/128/192/320kbpsのMP3形式での録音が可能
- 6バランスマイク/ライン入力 (入力端子1~4はXLR/TRSコンボジャック、5~6はTRSジャック)
- マイク入力は、+48Vファントム電源対応
- 入力レベルが大きすぎる場合に、適度なレベルに自動的に調節するリミッターを各入力に装備
- 低域ノイズの低減に便利なローカットフィルターを各入力に装備
- 6アンバランスライン出力 (RCAピンジャック)
- S/PDIFまたはAES/EBUのデジタル入出力 (COAXIAL)
- MSマイクデコードに対応
- 複数のDR-680MKIIのトランスポートをマスター機でコントロールするカスケード機能
- 最大2秒さかのぼって録音を開始できるプリレック機能
- 音声の入力レベルを感知して、自動で録音の開始が行えるオートレック機能
- 特定の位置への移動に役立つマーク機能
- 誤操作防止のためのボタン操作のロック機能
- リピート再生機能
- モニター用ミキサー (レベルおよびパンポット) 内蔵
- 録音を継続したまま、任意の位置でテイクを更新できるトラックインクリメント機能

- テイク名の形式をユーザーワードまたは日付のどちらかに設定可能
- 500mWモノラル出力のスピーカー内蔵
- 50mW+50mWヘッドホン出力
- 単3形電池8本または付属の専用ACアダプター (GPE248-120200-Z) で駆動
- 128 x 64のバックライト付ドットマトリックスタイプLCD
- USB2.0端子装備
- USBケーブル付属

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。

付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- | | |
|-----------------------------|----|
| ● 本体 | x1 |
| ● ACアダプター (GPE248-120200-Z) | x1 |
| ● USBケーブル | x1 |
| ● ショルダーベルト | x1 |
| ● 取扱説明書 (本書、保証書付き) | x1 |

注意

本機には必ず、付属の専用ACアダプター (GPE248-120200-Z) をご使用ください。また、付属のACアダプターを他の機器に使用しないでください。故障、火災、感電の原因となります。

メモ

付属の専用ACアダプター (GPE248-120200-Z) には、交換用のコンセントプラグが付属しています。交換方法については、21ページ「コンセントプラグの交換方法」をご参照ください。

第1章 はじめに

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「MENUボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を“ON”のように“_”で括って表記します。
- 「SD/SDHC/SDXCメモリーカード」のことを「SDカード」と表記します。
- パソコンのディスプレイ上に表示される文字を《OK》のように《 》で括って表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAMIは、ティアック株式会社の登録商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。



- Supply of this product does not convey a license nor imply any right to distribute MPEG Layer-3 compliant content created with this product in revenue-generating broadcast systems (terrestrial, satellite, cable and/or other distribution channels), streaming applications (via Internet, intranets and/or other networks), other content distribution systems (pay-audio or audio-on-demand applications and the like) or on physical media (compact discs, digital versatile discs, semiconductor chips, hard drives, memory cards and the like). An independent license for such use is required. For details, please visit <http://mp3licensing.com>.
- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.
- Windows 8、Windows 7、Windows Vista および Windows XP は、米国 Microsoft Corporation の米国、

日本およびその他の国における登録商標または商標です。

- Apple、iMac、Mac OS および Mac OS X は、Apple Inc. の商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは、各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではありません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、または、これらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

SDカードについて

本機では、SDカードを使って録音や再生を行います。使用できるカードは、64MB～2GBのSDカード、4GB～32GBのSDHCカード、および48GB～128GBのSDXCカードです。

TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されていますので、ご参照ください。もしくは、タスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

取り扱い上の注意

SDカードは、精密にできています。SDカードの破損を防ぐため、取り扱いに当たって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高い、あるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を載せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。
- 録音、再生状態やデータ転送などアクセス中に、抜き差しを行わないこと。
- 持ち運ぶ際、メモリーカードケースなどに入れて運ぶこと。

設置上の注意

- 動作保証温度は、摂氏0度～40度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。
 - 振動の多い場所。
 - 窓際などの直射日光が当たる場所。
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所。
 - 極端に温度が低い場所。
 - 湿気の多い場所や風通しが悪い場所。
 - ほこりの多い場所。
 - 直接雨などの水が当たる場所
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器がある場合にハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出る、またはラジオから雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

ユーザー登録について

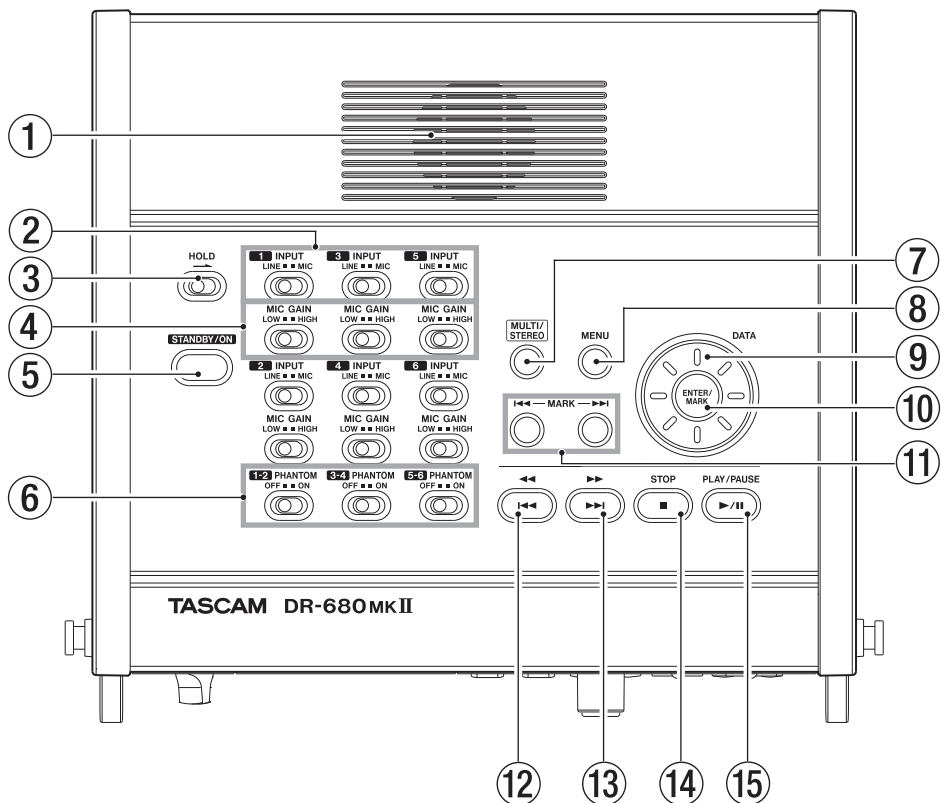
TASCAMのウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

<http://tascam.jp/support/registration/>

アフターサービス

- この製品には、保証書が添付（巻末に記載）されています。大切に保管してください。万が一販売店の捺印やご購入日の記載がない場合は、無料修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店・ご購入日が確認できる物を一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、保証書に記載の無料修理規定によりティアック修理センター（巻末に記載）が無料修理いたします。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理については、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、お買い上げの販売店またはティアック修理センターまでご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
 - 本機を使ったシステム内の記録メディアなどの記憶内容を消失した場合の修復に関しては、補償を含めて当社は責任を負いかねます。
 - 型名、型番（DR-680MKII）
 - 製造番号（Serial No.）
 - 故障の症状（できるだけ詳しく）
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

トップパネル



① 内蔵モノラルスピーカー

モニター用の内蔵スピーカーです。
音量の調節は、PHONESつまみで行います。
以下の状態では、スピーカーから音は出力されません。

- ヘッドホン接続時
- スピーカー出力設定オフ時

② INPUTスイッチ

入力をライン入力にするのか、マイク入力にするのかを切り換えます。

③ HOLDスイッチ

矢印の方向へ移動すると、電源のオン/スタンバイ操作を受け付けなくして、誤って電源を切ってしまうことを防止します。

④ MIC GAINスイッチ

マイク入力のゲイン設定をします。

⑤ STANDBY/ONボタン

電源のオン/スタンバイ状態の切り換えを行います。

⑥ PHANTOMスイッチ

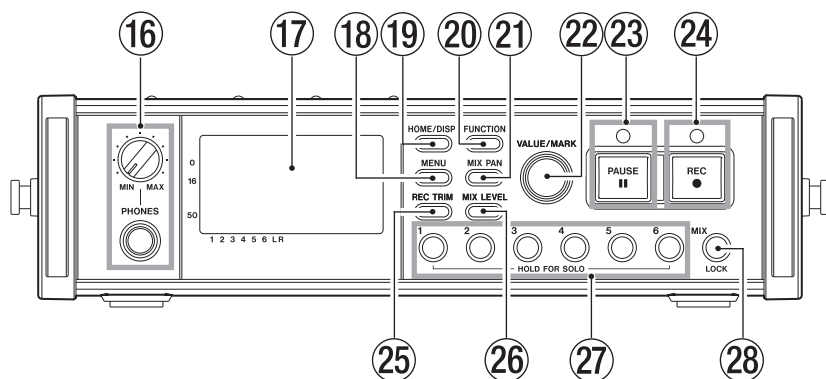
入力1-2、3-4、5-6の各ペアチャンネルのファントム電源をオン/オフします。

注意

- PHANTOMスイッチを「ON」にした状態で、マイクの抜き差しをしないでください。大きなノイズを発生し、本機および接続中の機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、PHANTOMスイッチを「ON」にしてください。ファントム電源を必要としないダイナミックマイクなどを接続しているときにファントム電源を「ON」にすると、本機および接続中の機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクとダイナミックマイクを合わせて使用する場合は、必ずバランスタイプのダイナミックマイクをご利用ください。アンバランスタイプのダイナミックマイクを混用することはできません。
- リボンマイクの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクにファントム電源を供給しないでください。

- ⑦ **MULTI/STEREOボタン**
ステレオトラックを再生するのか、マルチトラック（6トラック）を再生するのかを選択します。
- ⑧ **MENUボタン**
ホーム画面を表示中にこのボタンを押すと、メニュー画面を表示します。（→ 16ページ「メニューの構成」、（→ 17ページ「メニューを使う」）
- ⑨ **DATAホイール**
各種設定画面での操作時、項目を選択（反転表示）する、または選択肢／値を変更するときに使います。
ホーム画面表示時、DATAホイールを使ってテイクの再生位置を移動することができます。
- ⑩ **ENTER/MARKボタン**
各種設定画面での操作時、選択（反転表示）を確定する、または確認のポップアップメッセージやメニュー画面に対して「YES」と答えるときに使います。
ホーム画面で押すと、マークを追加します。
マークの位置で押すと、マークを削除します。
- ⑪ **MARK (◀◀ / ▶▶) ボタン**
ホーム画面で押すと、隣のマークにスキップします。
各種設定画面表示中に、画面内のカーソル（反転表示部）を左右に移動します。
“BROWSE”画面では、階層を戻ったり進めたりします。
MARK (◀◀) ボタンは、各種設定画面の操作で、確認のポップアップメッセージに対して「NO」と答えるときや、操作をキャンセルするときに使います。
- ⑫ **◀◀ [◀◀] ボタン**
テイクの再生中、あるいは途中で停止しているときにこのボタンを押すと、現在のテイクの先頭に戻ります。
テイクの先頭で停止しているときに押すと、手前のテイクにスキップします。
押し続けると早戻しサーチを行います。
- ⑬ **▶▶ [▶▶] ボタン**
再生中または停止中にこのボタンを押すと、次のテイクにスキップします。
押し続けると早送りサーチを行います。
- ⑭ **STOP ボタン**
録音または再生を停止し、現在のテイクの先頭で停止します。また、録音待機状態を解除します。
- ⑮ **PLAY/PAUSEボタン**
停止中または一時停止中に押すと、再生を始めます。
再生中に押すと、その位置で一時停止します。

フロントパネル



- ⑯ **PHONES端子／つまみ**
ステレオヘッドホンを接続するためのステレオ標準ホンジャックです。
PHONESつまみでヘッドホン出力レベルおよびスピーカー出力レベルを調節します。
- ⑰ **ディスプレイ**
各種情報を表示します。
- ⑱ **MENUボタン**
ホーム画面表示中に押すと、メニュー画面を表示します。
- ⑲ **HOME/DISPLAYボタン**
ホーム画面以外の画面を表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。
カウンター表示モードの切り換えを行います。
このボタンを押しながらフロントパネルの**VALUE/MARK**ダイヤルを回すと、ディスプレイのコントラストの調節を行います。
- ⑳ **FUNCTIONボタン**
ホーム画面表示中に押すと、ファンクション画面を表示します。

第2章 各部の名称と働き

㉑ MIX PANボタン

“PAN”画面（パンポット設定画面）を表示します。
“PAN”画面表示中に押すと、“PAN”画面を閉じてホーム画面に戻ります。

㉒ VALUE/MARKダイヤル

“TRIM”画面（インプットトリム設定画面）、“LEVEL”画面（レベル設定画面）、“PAN”画面（パンポット設定画面）で選択項目の値を設定します。

ファンクション画面では、機能項目の選択（**☐** アイコンの移動）を行い、このダイヤルを押すことにより、各機能項目のオン/オフを行います。

フロントパネルのHOME/DISPLAYボタンを押しながらこのダイヤルを回すと、ディスプレイのコントラストの調節を行います。

メニュー画面でこのダイヤルを押すことにより、ENTER/MARKボタンの代用として使用できます。

ホーム画面で押すと、マークを設定します。

ホーム画面で回すと、マークをスキップします。

メニュー画面で押すと、カーソルを左右に移動します。

メニュー画面で回すとカーソルを移動したり、設定値を変更したりします。

㉓ PAUSEボタン／インジケーター

停止中または録音中に押すと、録音待機状態になります。

録音待機中は、インジケーターが点灯します。

録音待機中に押すと、停止状態になります。

メモ

フロントパネルのPAUSEボタンは、録音用として使用します。

再生中に押しても動作しません。

再生を一時停止するには、トップパネルのPLAY/PAUSEボタンを押します。

㉔ RECボタン／インジケーター

停止中または録音待機中に押すと、録音を開始します。録音中または録音待機中は、インジケーターが点灯します。録音中にこのボタンを押すと、録音は継続したままですが、現在のテイクへの録音を停止し、新しいテイクへの録音を開始します。

㉕ REC TRIMボタン

“TRIM”画面（インプットトリム設定画面）を表示します。

“TRIM”画面表示中に押すと、“TRIM”画面を閉じてホーム画面に戻ります。

㉖ MIX LEVELボタン

“LEVEL”画面（レベル設定画面）を表示します。

“LEVEL”画面表示中に押すと、“LEVEL”画面を閉じてホーム画面に戻ります。

㉗ チャンネル番号ボタン（1～6ボタン）

“TRIM”画面（インプットトリム設定画面）、“LEVEL”画面（レベル設定画面）、“PAN”画面（パンポット設定画面）で操作する対象トラックを選択します。

録音待機中に押すと、各トラックのレコードファンクションをオン/オフします。

ファンクション画面では、選択されている機能をトラック毎にオン/オフします。

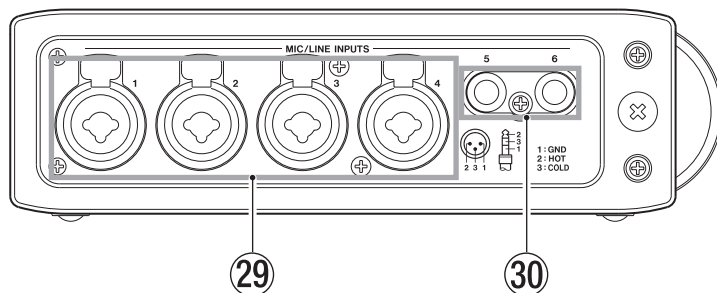
長押しすると、そのトラックのソロモニターのオン/オフをします。

㉘ MIX [LOCK] ボタン

“LEVEL”画面（レベル設定画面）で、操作する対象トラックにステレオトラックを選択します。

このボタンを長押しすると、ロック機能（誤操作防止のためにボタン操作を受け付けなくする機能）をオン/オフします。

左サイドパネル



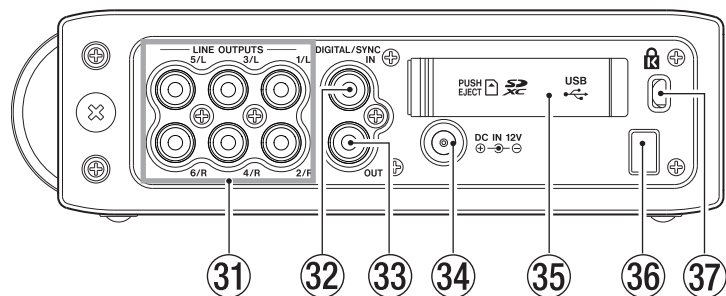
㉙ MIC/LINE INPUTS端子（XLR/TRS）

アナログマイク／ライン入力端子（XLR/TRSコンボジャック、バランス）です（1：GND、2：HOT、3：COLD、Tip：HOT、Ring：COLD、Sleeve：GND）。

㉚ MIC/LINE INPUTS端子（TRS）

アナログマイク／ライン入力端子（TRSジャック、バランス）です（Tip：HOT、Ring：COLD、Sleeve：GND）。

右サイドパネル



③① LINE OUTPUTS端子

アナログ出力端子（RCAピンジャック、アンバランス）です。マルチトラック再生時は、各トラックに録音された音声を出力します。

録音時は、各トラックに録音される音声を出力します。マルチトラックを再生しているときに、内部設定によりステレオミックスの出力を、1 / 2、3 / 4、および5 / 6の出力端子から出力することも可能です。ステレオトラック再生時は、1 / 2の出力端子からステレオトラックの再生音を出力します。

③② DIGITAL/SYNC IN端子

デジタル入力端子です。

この端子に入力された信号は、トラック5 / 6、またはステレオトラックに録音することができます。

IEC60958-3 (S/PDIF)、またはAES3-2003/IEC60958-4 (AES/EBU) を入力することができます（自動判別）。

サンプリング周波数が96kHz時はダブルスピード、192kHz時はクワッドスピードでの転送になります。

本機を2台カスケード接続する場合は、もう1台のDR-680MKIIのDIGITAL/SYNC OUT端子とこの端子を接続します。

③③ DIGITAL/SYNC OUT端子

内部ミキサーでミックスしたステレオ信号を出力します。

内部設定により、IEC60958-3 (S/PDIF)、またはAES3-2003/IEC60958-4 (AES/EBU) フォーマットで出力することができます。

サンプリング周波数が96kHz時はダブルスピード、192kHz時はクワッドスピードでの転送になります。

本機を2台カスケード接続する場合は、もう1台のDR-680MKIIのDIGITAL/SYNC IN端子とこの端子を接続します。

③④ DC IN 12V端子

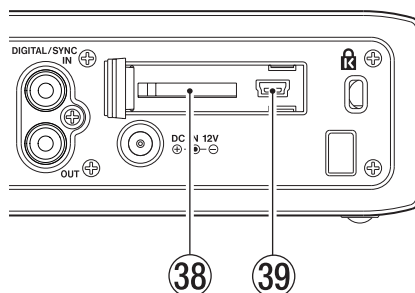
付属の専用ACアダプター（GPE248-120200-Z）を接続します。

③⑤ SDカードスロット / USB端子カバー

③⑥ コードホルダー

付属の専用ACアダプター（GPE248-120200-Z）のコードを引っ掛けてプラグの抜け落ちを防止します。

③⑦ ケンジントンロック装着穴



[SDカードスロット / USB端子カバー取り外し時]

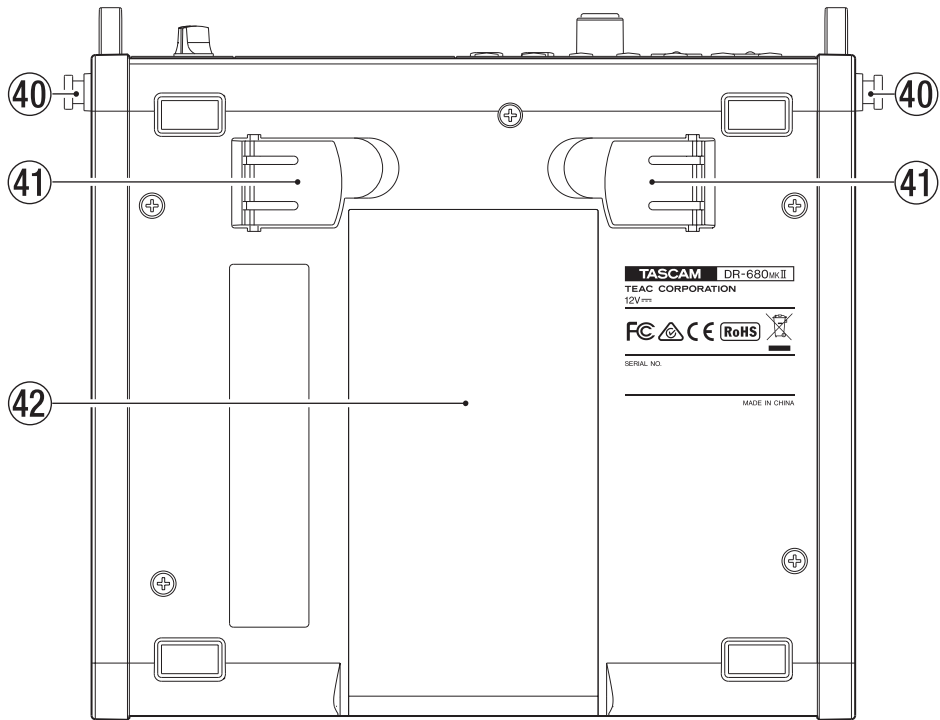
③⑧ SDカードスロット

SDカードを挿入します。

③⑨ USB端子

付属のUSBケーブルを使ってパソコンと接続します。パソコンからは、本機はマストレージ機器として認識されます。ドライバーソフトウェアは、必要ありません。USB接続を通して、本機のSDカードとパソコン間でファイルの転送を行うことができます。

ボトムパネル



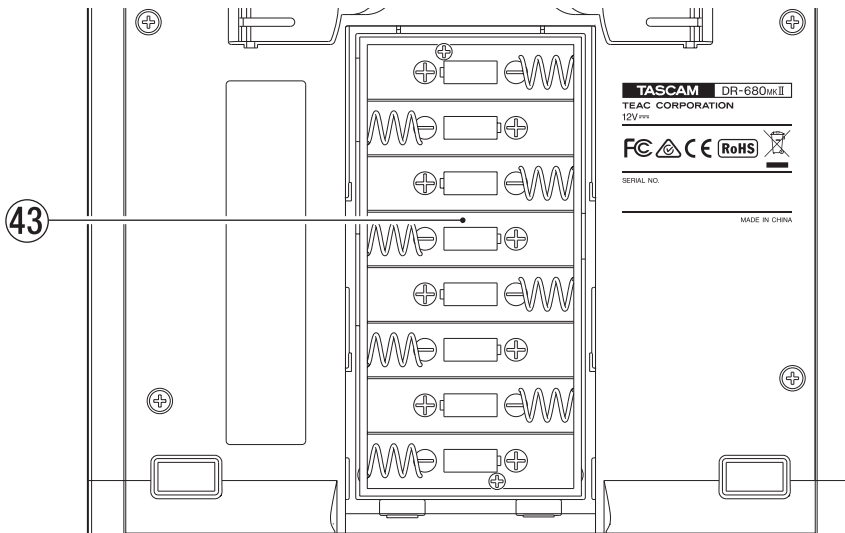
④ ショルダーベルト用フック

付属のショルダーベルトを取り付けます。

④ スタンド

卓上設置時に、本機を少し立たせるためのスタンドです。

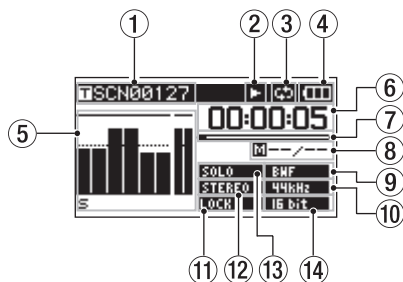
④ 電池ケースふた



④ 電池ケース

本機の電源になる電池（単3形電池、8本）を収納するケースです。（→ 20ページ「単3形電池で使用する」）

ホーム画面



⑤ レベルメーター

トラック1～6、およびステレオミックスのレベル表示をします。

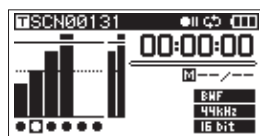
録音時に、ステレオトラック録音がオンで、デジタル入力をステレオトラックの録音ソースに設定すると、ステレオトラックのレベルメーターがデジタル入力のレベルメーターになります。

マルチトラックの再生中は、各トラックの再生レベルを表示します。

録音中は、各トラックの録音レベルを表示します。

録音中、入力段で信号が歪んでいる場合は、レベルメーターの下の部分が反転表示します。

録音レベルが最大レベルから2.0dB下がったレベル以上になった場合は、レベルメーターの一番上の部分が点灯し、オーバーロード表示をします。



ステレオトラック再生時は、トラック1 / 2のレベルメーターが、ステレオトラックのL / Rレベルメーターになります。

レコードファンクションがオンになっているトラックは、レベルメーターの下の部分に“■”アイコンが表示されます。ソロモニターがオンになっているトラックは、レベルメーターの下の部分に“S”アイコンが表示されます。

メモ

レコードファンクション（“■”アイコン）とソロモニター（“S”アイコン）の両方がオンになっている場合は、ソロモニター表示“S”アイコンが優先されます。

⑥ 時間表示（時：分：秒）

再生中は、テイクの再生経過時間を表示します。

フロントパネルのHOME/DISPLAYボタンを押すとマイナス時間表示になり、テイクの残り時間を表示します。

録音中は、テイクの録音経過時間を表示します。

フロントパネルのHOME/DISPLAYボタンを押すとマイナス時間表示になり、メディアの残り録音可能時間を表示します。

⑦ 再生位置表示

現在の録音／再生位置をバー表示します。録音／再生の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

⑧ マーク表示

マーク番号と現在のテイクにつけられたマーク数を表示します。

再生中は、現在の位置から一番近い手前のマーク番号を表示します。

録音中は、最後につけられたマーク番号を表示します。

① テイク名表示

停止中または再生中は、現在ロードしているテイク名が表示されます。

録音中または録音待機中は、録音するテイク名が表示されます。

11文字まで表示し、それ以降はスクロール表示されます。

② レコーダーの動作状態表示

レコーダーの動作状況をアイコン表示します。

- : 停止中
- ▶ : 再生中
- ▶|| : 一時停止中
- ▶▶ : 早送りサーチ中
- ◀◀ : 早戻しサーチ中
- : 録音中
- || : 録音待機中
- ▶▶▶ : 早送りスキップ中
- ◀◀◀ : 早戻しスキップ中

③ リピート表示

リピート機能がオンのときに、“■”アイコンが表示されません。

④ 電源供給の状態表示

電池駆動時は、“■”アイコンを表示します。

電池残量に応じて、目盛りが表示されます（“■”、“■”、“■”）。

電池残量が残り少なくなると“■”アイコンが点滅し、電池切れのためにまもなく電源がスタンバイ状態になります。付属の専用ACアダプター（GPE248-120200-Z）使用時は、“■”アイコンを表示します。

メモ

残量がなくなる前でも録音など負荷の大きい動作を行うとすると、“Battery Low”の警告のポップアップメッセージが出る場合があります。

第2章 各部の名称と働き

⑨ ファイルタイプ表示

停止中または再生中は、現在ロードしているテイクのファイルタイプが表示されます。

録音中または録音待機中は、録音するテイクのファイルタイプが表示されます。

BWF : BWF

WAV : WAV

MP3 : MP3

⑩ サンプリング周波数表示

停止中または再生中は、現在ロードしているテイクのサンプリング周波数が表示されます。

録音中または録音待機中は、録音するテイクのサンプリング周波数が表示されます。

44kHz : 44.1kHz

48kHz : 48kHz

96kHz : 96kHz

192kHz : 192kHz

⑪ LOCK表示

トップパネル、フロントパネルのボタン操作のロック機能がオンのときに“**LOCK**”が点灯します。

⑫ STEREO表示

ステレオトラックを再生しているときに“**STEREO**”が点灯します。このとき、トラック1 / 2のレベルメーターが、ステレオトラックのL / Rレベルメーターになります。

⑬ SOLO (ソロ) 表示

ソロモニターがオンのときに“**SOLO**”が点灯します。このとき、ソロモニター選択中のトラックは、レベルメーターの下に“**S**”アイコンが表示されます。

⑭ 量子化ビット表示

停止中または再生中は、現在ロードしているテイクの量子化ビット数が表示されます。

録音中または録音待機中は、録音するテイクの量子化ビット数が表示されます。

録音 / 再生するテイクがMP3の場合は、ビットレート表示となります。

BWF/WAV

16 bit : 16ビット

24 bit : 24ビット

MP3

96Kbps : 96kbps (48kbps)

128Kbps : 128kbps (64kbps)

192Kbps : 192kbps (96kbps)

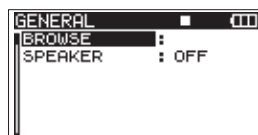
320Kbps : 320kbps (160kbps)

メモ

カッコ内は、モノラル録音時のビットレートです。

メニューの構成

トップパネルまたはフロントパネルの**MENU**ボタンを押すと、メニュー画面の“**GENERAL**”ページが表示されます。



メニュー画面は、メニュー項目の種類ごとに8つのページで構成されています。

- GENERALページ
- RECページ
- AUTO RECページ
- LOW CUTページ
- I/Oページ
- PLAYページ
- CARDページ
- SYSTEMページ

メニュー項目は、以下の通りです。

メニュー項目	機能	参照ページ
GENERALページ		
BROWSE	BROWSE画面を表示	→ 40ページ
SPEAKER	内臓スピーカー出力の設定	→ 23ページ
RECページ		
FORMAT	録音ファイル形式を設定	→ 25ページ
SAMPLE	サンプリング周波数を設定	→ 26ページ
DUAL REC	デュアル録音の設定	→ 34ページ
FILE	録音ファイルモードを設定	→ 26ページ
TRACK	録音トラックの設定	→ 27ページ
ST REC	ステレオトラックの録音設定	→ 27ページ
PAUSE	録音一時停止後の録音設定	→ 27ページ
NAME	テイク名の形式を設定	→ 28ページ
TAKE NO. INIT	テイク名の番号の初期化	→ 29ページ
AUTO RECページ		
LEVEL	オートレック機能の設定	→ 35ページ
SILENT CUT	サイレントカット機能の設定	→ 35ページ
SILENT DELAY		
AUTO MARK	オートマーク機能の設定	→ 36ページ
LOW CUTページ		
FREQUENCY	ローカットフィルターの設定	→ 37ページ

メニュー項目	機能	参照ページ
I/Oページ		
INPUT 5/6	トラック5 / 6の 録音ソース設定	→ 31ページ
LINE OUT	アナログ出力の設定	→ 52ページ
DIGITAL OUT	デジタル出力の設定	→ 52ページ
PLAYページ		
AREA	再生範囲の設定	→ 44ページ
SEARCH SPEED	サーチスピードの設定	→ 45ページ
CARDページ		
INFORMATION	SDカード情報を表示	→ 55ページ
FORMAT	SDカードの フォーマット	→ 54ページ
SYSTEMページ		
AUTO OFF	電源のオートオフ設定	→ 53ページ
BACKLIGHT	ディスプレイの バックライトの設定	→ 53ページ
CASCADE	カスケード接続の設定	→ 53ページ
LOCK MODE	ロック機能の設定	→ 53ページ
BATTERY	電池の種類の設定	→ 53ページ
INITIALIZE	初期設定状態に戻す	→ 54ページ
INFORMATION	システム情報を表示	→ 54ページ
DATE/TIME	日時を設定	→ 23ページ

メモ

- 録音中または録音待機中は、MENUボタンを押してもメニュー画面は表示されません。
- 各メニュー項目で設定した内容は、電源をオフにしても保持されます。

メニューを使う

サンプリング周波数を変更することを例に説明します。

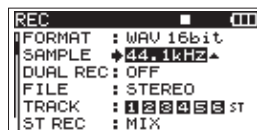
1. トップパネルまたはフロントパネルのMENUボタンを押して、メニュー画面の“GENERAL”ページを表示します。



2. MENUボタンを押して、各種メニューページを表示します。
3. トップパネルのDATAホイールまたはフロントパネルのVALUE/MARKダイヤルを回して、設定する項目を選択（反転表示）します。



4. トップパネルのENTER/MARKボタンまたはフロントパネルのVALUE/MARKダイヤルを押すと、設定内容にカーソル（反転表示部）が移動します。



5. トップパネルのDATAホイールまたはフロントパネルのVALUE/MARKダイヤルを回して、設定を変更します。
6. 同じ画面内で別の項目を設定する場合は、トップパネルのMARK (◀◀) ボタンを押します。設定項目選択状態に戻りますので、トップパネルのDATAホイールまたはフロントパネルのVALUE/MARKダイヤルを回して、設定したい項目を選択（反転表示）します。
7. 必要に応じて、手順4. ～ 6. を繰り返して、各項目を設定します。
8. フロントパネルのHOME/DISPボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

操作の基本

各種設定画面の操作には、次の操作子を使用します。

MENUボタン

メニュー画面を表示していないときに押すと、メニュー画面を呼び出します。

このボタンは、トップパネルとフロントパネルのそれぞれにあります。

DATAホイール

各項目を選択（反転表示）する、または値を変更するときに使用します。

VALUE/MARKダイヤルでも代用できます。

ENTER/MARKボタン

各設定項目の選択を確定（反転表示）する、または確認のポップアップメッセージに対して「YES」を選択するときに使用します。

VALUE/MARKダイヤルを押すことでも代用できます。

MARK (◀◀) ボタン

設定画面内のカーソル（反転表示部）を右に移動するときや、“BROWSE”画面でフォルダーを開くときに使用します。

確認のポップアップメッセージに対して「NO」を選択するときに使用します。

MARK (▶▶) ボタン

設定画面内のカーソル（反転表示部）を左に移動するときや、“BROWSE”画面でフォルダーを閉じるときに使用します。

HOME/DISPボタン

各設定画面を表示中にフロントパネルのHOME/DISPボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

ファンクション画面

ホーム画面表示中にフロントパネルのFUNCTIONボタンを押すと、ファンクション画面が表示されます。



ファンクション画面では、以下の設定項目の操作と表示を行います。

- リピート設定
 - プリレック設定
 - 自動録音設定
 - DIN / MIXモニター設定
 - リミッター設定
 - ローカットフィルター設定
1. ホーム画面表示中にフロントパネルのFUNCTIONボタンを押して、ファンクション画面を表示します。
 2. フロントパネルのVALUE/MARKダイヤルでカーソル（“▶”アイコン）を移動して、設定項目を選択します。
 3. VALUE/MARKダイヤルを押します。リミッター項目、ローカットフィルター項目を選択しているときは、VALUE/MARKダイヤルまたはフロントパネルのチャンネル番号ボタン（1～6ボタン）を押します。
 4. 設定が終了したら、HOME/DISPボタンを押してホーム画面に戻ります。

リピート設定

“REPEAT”項目で、リピート再生のオン/オフ設定をします。初期値は、オフです。

REPEAT : リピート再生オン
REPEAT : リピート再生オフ

プリレック設定

“PRE REC”項目で、プリレック機能のオン/オフ設定をします。初期値は、オフです。

PRE. REC : プリレック機能オン
PRE. REC : プリレック機能オフ

自動録音設定

“**A.REC**”項目で、自動録音機能のオン/オフ設定をします。初期値は、オフです。

A.REC : 自動録音機能オン
A.REC : 自動録音機能オフ

DIN / MIXモニター設定

メニュー画面の“**REC**”ページの“**ST REC**”項目が“**DIN**”に設定されている場合に、モニターするソースを選択します。

VALUE/MARKダイヤルを押すことで“**DIN MON**”と“**MIX MON**”のいずれかを選択します。初期値は、“**MIX MON**”です。

MIX MON : ステレオミックスをモニター
DIN MON : デジタル入力をモニター

メモ

メニュー画面の“**REC**”ページの“**ST REC**”項目が“**MIX**”に設定されている場合は“**MIX MON**”に固定され、“**DIN MON**”に変更することはできません。

リミッター設定

“**LIMITER**”項目で、リミッター機能のオン/オフ設定をチャンネル毎に行います。

“**1**”～“**6**”のチャンネル表示が反転表示（黒地に白抜き数字）している状態が、リミッター機能オンです。初期値は、全チャンネルオフです。

フロントパネルの**VALUE/MARK**ダイヤルを押すと、全チャンネル同時にオン/オフします。

フロントパネルのチャンネル番号ボタン（**1**～**6**ボタン）で、チャンネル毎にオン/オフします。

1つ以上のチャンネルでオンになっていると、“**LIMITER**”が反転表示（黒地に白抜き文字）します。

LIMITER ▶ **123456** : 全チャンネルのリミッター機能がオン
LIMITER ▶ **123456** : チャンネル“**1**”のリミッター機能がオン
LIMITER ▶ **123456** : 全チャンネルのリミッター機能がオフ

ローカットフィルター設定

“**LOW CUT**”項目で、ローカットフィルター機能のオン/オフ設定をチャンネル毎に行います。

“**1**”～“**6**”のチャンネル表示が反転表示（黒地に白抜き数字）している状態が、ローカットフィルター機能オンです。

フロントパネルの**VALUE/MARK**ダイヤルを押すと、全チャンネル同時にオン/オフします。

フロントパネルのチャンネル番号ボタン（**1**～**6**ボタン）で、チャンネル毎にオン/オフします。初期値は、全チャンネルオフです。

1つ以上のチャンネルでオンになっていると、“**LOW CUT**”が反転表示（黒地に白抜き文字）します。

LOW CUT ▶ **123456** : 全チャンネルのローカットフィルター機能がオン
LOW CUT ▶ **123456** : チャンネル“**1**”のローカットフィルター機能がオン
LOW CUT ▶ **123456** : 全チャンネルのローカットフィルター機能がオフ

メモ

カットオフ周波数の設定は、メニュー画面の“**LOW CUT**”ページ内にある“**FREQUENCY**”項目で行います。（→37ページ「ローカットフィルターを使う」）

第3章 準備

電源の準備

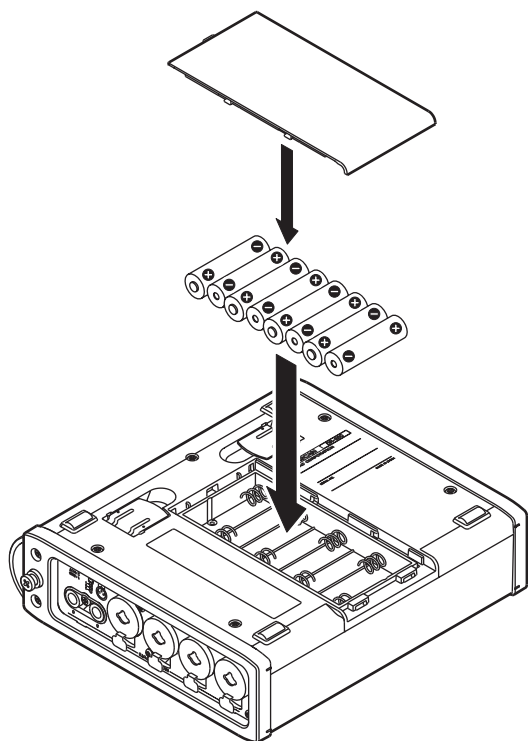
電源について

本機は、単3形電池8本、または付属の専用ACアダプター (GPE248-120200-Z) を使って電源を供給します。

本機は、単3形アルカリ乾電池および単3形ニッケル水素電池、単3形リチウム乾電池も使用することができます。

単3形電池で使用する

本機のボトムパネルにある電池ケースふたをスライドして取り外し、電池ケース内の⊕と⊖の表示に合わせて、単3形電池を8本セットして、電池ケースふたを取り付けます。



単3形電池で使用する時、電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量を識別するために、電池の種類を設定してください。(→ 53ページ「電池の種類の設定」)

注意

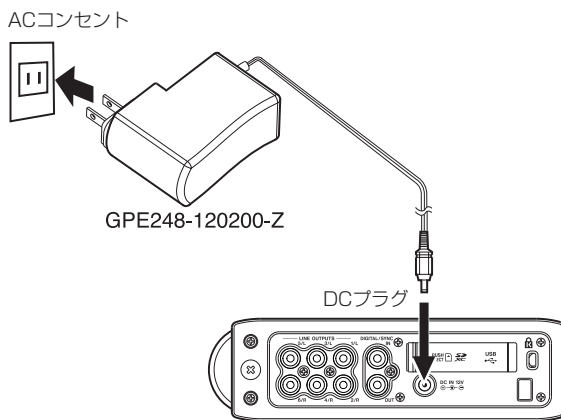
- 単3形マンガン乾電池は、使用できません。
- 本機で単3形ニッケル水素電池を充電することは、できません。市販の充電器をご使用ください。

メモ

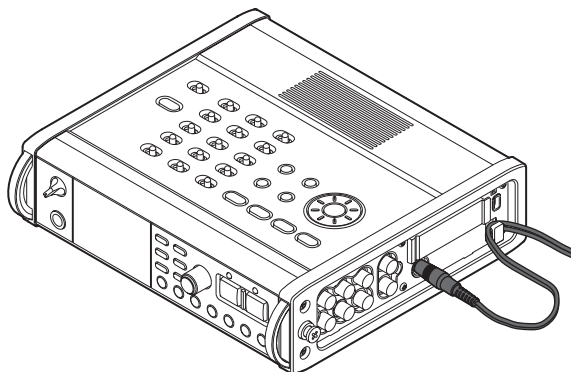
コンデンサーマイクヘファントム電源を供給した場合は、電力を多く消費します。単3形電池 (ニッケル水素電池またはアルカリ乾電池) で駆動しているときに、コンデンサーマイクを使用すると稼働時間が極端に短くなります。長時間稼働させたい場合は、付属の専用ACアダプター (GPE248-120200-Z) をご使用ください。

ACアダプターで使用する

図のように付属の専用ACアダプター (GPE248-120200-Z) をDC IN 12V端子に接続します。



右サイドパネルには、ACアダプターのコードを固定するためのフック (コードホルダー) があります。使用中のコード抜けを防ぐため、接続するときはコードホルダーにコードを巻いてください。



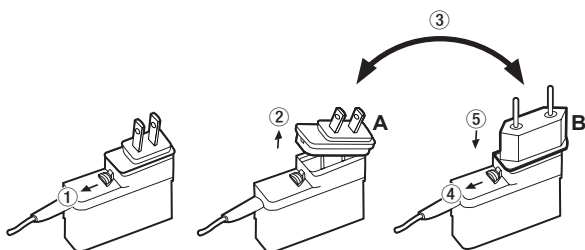
注意

必ず付属の専用ACアダプター (GPE248-120200-Z) をご使用ください。それ以外のものを使用すると故障、火災、感電の原因となります。

メモ

- 電池とACアダプターの両方をセットした場合は、ACアダプターから電源が供給されます。
- 専用ACアダプターには、2種類のコンセントプラグが同梱されています。ご使用になる電源コンセントの形状に合ったコンセントプラグに取り替えてご使用ください。

コンセントプラグの交換方法



- ① ACアダプターのノブを矢印方向に移動させます。
- ② コンセントプラグを引き抜きます。
- ③ 付属のAまたはBのコンセントプラグに交換します。
- ④ もう一度、ACアダプターのノブを矢印方向に移動させます。
- ⑤ ACアダプターにコンセントプラグを差し込みます。

交換完了後にコンセントプラグの浮きやガタつきがないか確認し、異常がなければ電源コンセントに接続してください。

注意

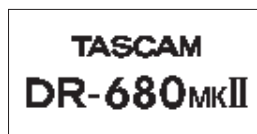
交換後のコンセントプラグに異常がある場合は、使用を中止してください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に修理をご依頼ください。

電源を入れる／スタンバイ状態にする

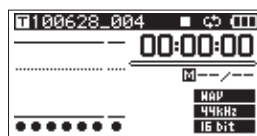
電源を入れる

電源がスタンバイ状態時に、トップパネルのSTANDBY/ONボタンを長押しし、“TASCAM DR-680MKII”（起動画面）が表示されたら離します。

本機が起動してホーム画面が表示されます。



[起動画面]



[ホーム画面]

注意

ホーム画面が表示されるまで、SDカードを抜き差ししないでください。

電源をスタンバイ状態にする

電源オン時に、トップパネルのSTANDBY/ONボタンを長押しし、以下のシャットダウン画面が表示されたら離します。



シャットダウン処理が実行されたあとに、電源がスタンバイ状態になります。

注意

電源をスタンバイ状態にするときは、必ずトップパネルのSTANDBY/ONボタンで行ってください。

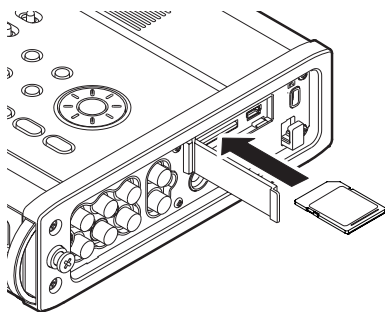
電源がオンのときに電池を外したり、専用ACアダプター（GPE248-120200-Z）で使用している時に電源コードを抜いたりすると録音データや設定などが全て失われます。なお、失われたデータや設定は、復活することができません。

SDカードを挿入する／取り出す

- 使用できるSDカードは、SD/SDHC/SDXC規格に対応した128GBまでの容量のカードです。
- TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されていますのでご参照ください。もしくは、タスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

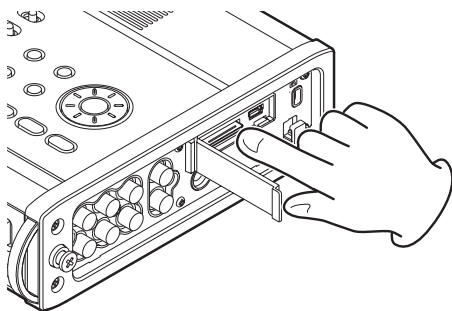
SDカードを挿入する

1. 本機右サイドパネルのSDカードスロットのカバーをあげます。
2. SDカードを図の方向にカチッと音がするまで差し込みます。



SDカードを取り出す

1. SDカードスロットのカバーをあげます。
2. SDカードを軽く押し込むと手前に出てきます。



注意

- 録音、再生などカードアクセス中に、本機からSDカードを取り出さないでください。
- パソコンとUSB接続中、本機からSDカードを取り出さないでください。
- 使用できるSDカードは、SD/SDHC/SDXC規格に対応したカードです。
- TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されています。

SDカードを使えるようにする

本機でSDカードを使えるようにするために、本機でフォーマットする必要があります。

注意

- フォーマットを行うとSDカード上のデータは、全て失われます。
- フォーマットは、本機に付属の専用ACアダプター (GPE248-120200-Z) を使用しているときに行うか、電池の残量が十分な状態のときに行ってください。

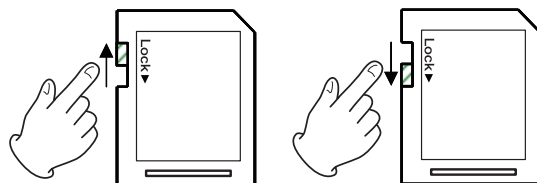
1. SDカードが挿入されていることを確認し、電源を入れます。
2. 新しいSDカード、または本機以外でフォーマットされたSDカードを挿入したとき、以下のようなポップアップメッセージが表示されます。



3. トップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、フォーマットを開始します。
4. フォーマットが終了するとホーム画面に戻ります。また、本機ではいつでもフォーマットを行うことができます。(→ 54ページ「SDカードをフォーマットする」)

SDカードのライトプロテクトについて

SDカードには、プロテクト(書き込み防止)スイッチがついています。

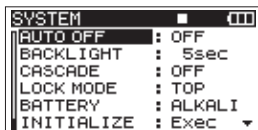


プロテクトスイッチを [LOCK] の方向へスライドすると、ファイルの記録や編集ができなくなります。録音や削除などを行う場合は、書き込み禁止を解除してください。

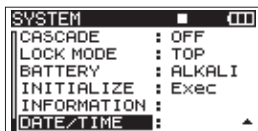
日時を設定する

本機は、本体内の時計を基に、録音したファイルに日時を記録します。

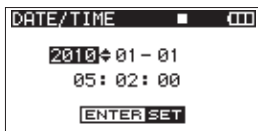
1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“SYSTEM”ページを表示します。



2. トップパネルのDATAホイールを使って“DATE/TIME”項目を選択（反転表示）します。



3. トップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、“DATE/TIME”画面が表示されます。



4. トップパネルのMARK (◀◀) ボタンまたはMARK (▶▶) ボタンを押して、カーソル（反転表示部）を移動し、DATAホイールを使って値を変更します。
5. ENTER/MARKボタンを押して日時設定を確定し、メニュー画面に戻ります。
6. MENUボタンまたはフロントパネルのHOME/DISPボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

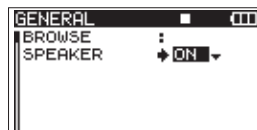
メモ

ここで設定した日時をテイクの名前に付けることができます。（→ 28ページ「録音するテイク名を設定する」）

内蔵スピーカーの出力をオン／オフするには

工場出荷時、本機の内蔵スピーカーの出力設定はオンに設定されています。内蔵スピーカーの出力をオフにするには、“GENERAL” ページの“SPEAKER”項目をオフにしてください。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“GENERAL”ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“SPEAKER”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。



3. DATAホイールを使って、以下の中から設定します。
選択肢：“OFF”、“ON”（初期値）
4. トップパネルのMARK (◀◀) ボタンを押すと、メニュー画面の項目選択状態に戻ります。
5. フロントパネルのHOME/DISPボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

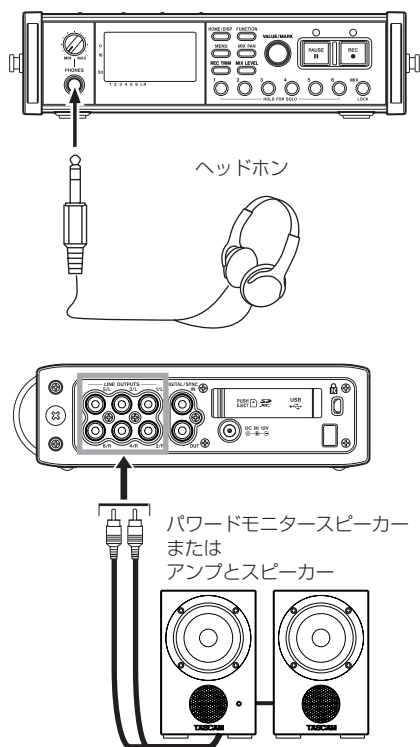
メモ

- ヘッドホンを接続すると、“SPEAKER”設定が“ON”に設定されていても、内蔵スピーカーから音は出力されません。
- 音を出す前は、PHONESつまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

モニター用機器を接続する

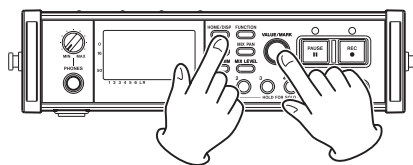
ヘッドホンで聴く場合は、**PHONES**端子にヘッドホンを接続してください。**PHONES**つまみでヘッドホン出力レベルを調節してください。

外部モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカー）で聴く場合は、**LINE OUTPUTS**端子に外部モニターシステムを接続してください。



ディスプレイのコントラスト調節

フロントパネルの**HOME/DISPLAY**ボタンを押しながら**VALUE/MARK**ダイヤルを回すと、ディスプレイのコントラストの調節を行います。



メモ

音を出す前は、**PHONES**つまみ、および外部モニターシステムの音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

本機では、以下の録音ができます。

- WAV/BWF (16/24ビット、44.1k/48k/96kHz)
6トラック+ステレオ
- WAV/BWF (16/24ビット、192kHz)
2トラック
- MP3 (96/128/192/320kbps、44.1k/48kHz)
4トラック、2トラック+ステレオ

ファイルとテイクについて

本機では、同時に録音されたオーディオファイルのかたまりを「テイク」と呼びます。

ファイルモードの設定により、テイクに含まれるファイルは、以下のようになります。

例1：WAVフォーマットで6トラック+ステレオ録音を行った場合

- MONO選択時 : モノラルWAVファイル x6 + ステレオWAVファイル
- STEREO選択時 : ステレオWAVファイル x3 + ステレオWAVファイル
- 6ch : 6チャンネルWAVファイル x1 + ステレオWAVファイル

例2：MP3フォーマットで4トラック録音を行った場合

- MONO選択時：モノラルMP3ファイル x4
- STEREO選択時：ステレオMP3ファイル x2

本機に記録できる最大テイク数は、1000個です。

最大ファイル数は、5000個です。

同一フォルダー内のファイル数が多くなると、録音開始時に時間がかかり、頭が欠けることがあります。これを回避するには、同一フォルダー内のテイク数はできるだけ少なくするか、録音待機状態を経由して録音してください。また、同一フォルダー内のファイル数が多い際のトラックインクリメント時にもこの現象が起こる場合があります。

トラックインクリメントは、録音中にRECボタンを押したとき、および最大ファイルサイズを超えた場合に自動で起こります。(→ 36ページ「トラックインクリメント」)

メモ

- トラックインクリメントを使用する、または使用が予想される場合には、同一フォルダー内のテイク数はできるだけ少なくしてください。
- 同一フォルダー内の最大テイク数の目安は100程度です。

録音の設定を行う

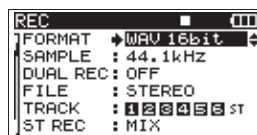
録音ファイルフォーマットを設定する

録音するファイルの形式 (BWF/WAV/MP3)、量子化ビット数 (BWF/WAV)、またはビットレート (MP3) を設定します。

メモ

- WAV/BWFの方がMP3よりも高音質で録音ができます。
- BWFは放送局用のフォーマットで、音質はWAVと同等です。
- MP3の方がWAVよりも長時間録音ができます。
- MP3の場合は、値が大きいほど高音質で録音ができます。
- 録音時間については、39ページ「録音時間について」をご参照ください。
- ファイルフォーマットがMP3の場合は、最大録音トラック数は4トラックになります (MONO x4、STEREO x2、またはMONO x2 + STEREO)。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“REC”ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“FORMAT”項目を選択 (反転表示) し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。

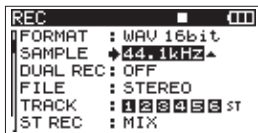


3. DATAホイールを使って、以下の中から設定します。
選択肢：“BWF-16bit”、“BWF-24bit”、“WAV-16bit” (初期値)、“WAV-24bit”、“MP3-96kbps”、“MP3-128kbps”、“MP3-192kbps”、“MP3-320kbps”
4. トップパネルのMARK (I◀◀) ボタンを押すと、メニュー画面の項目選択状態に戻ります。
5. フロントパネルのHOME/DISPボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

サンプリング周波数を設定する

録音するテイクのサンプリング周波数を、44.1k/48k/96k/192kHzの中から選択します。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“REC”ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“SAMPLE”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。



3. DATAホイールを使って、以下の中から設定します。
選択肢：“44.1kHz”（初期値）、“48kHz”、“96kHz”、“192kHz”

メモ

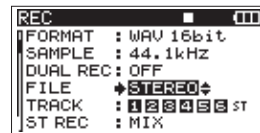
ファイルフォーマットがMP3の場合は、“96kHz”と“192kHz”は選択できません。

4. トップパネルのMARK (I◀◀) ボタンを押すと、メニュー画面の項目選択状態に戻ります。
5. フロントパネルのHOME/DISPボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

録音ファイルモードを設定する

録音するファイルのモードをモノファイル、ステレオファイル、6チャンネルファイルの中から選択します。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“REC”ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“FILE”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。



3. DATAホイールを使って、以下の中から設定します。
選択肢：“MONO”、“STEREO”（初期値）、“6ch”

メモ

- “MONO”を選択すると、録音トラックごとにモノラルファイルが作成されます。
“STEREO”を選択すると、トラック1-2、3-4、5-6がそれぞれステレオファイルとして作成されます。
“6ch”を選択すると、トラック1～6が1つの6チャンネルファイルとして作成されます。
 - ファイルフォーマットが“MP3”の場合、またはサンプリング周波数が“192kHz”の場合は、“6ch”は選択できません。
 - デュアル録音機能がオンの時は、“MONO”以外選択できません。（→ 34ページ「デュアル録音の設定をする」）
4. トップパネルのMARK (I◀◀) ボタンを押すと、メニュー画面の項目選択状態に戻ります。
 5. フロントパネルのHOME/DISPボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

ステレオトラックの録音設定をする

ステレオトラックに録音する設定を行います。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“REC”ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“ST REC”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。



3. DATAホイールを使って、以下の中から設定します。

選択肢

MIX（初期値）：6つの入力をミックスしてステレオトラックに録音します。

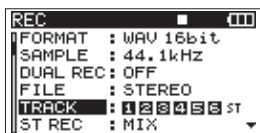
DIN：DIGITAL/SYNC IN端子からの信号をステレオトラックに録音します。

4. トップパネルのMARK (I◀◀) ボタンを押すと、メニュー画面の項目選択状態に戻ります。
5. フロントパネルのHOME/DISPボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

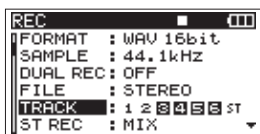
レコードファンクションを変更する

メニュー画面の“REC”ページからレコードファンクションを変更できます。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“REC”ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“TRACK”項目を選択（反転表示）します。



3. フロントパネルのチャンネル番号ボタン（1～6ボタン）を使ってレコードファンクションをオン/オフします。レコードファンクションがオンになっているトラックは、反転表示（黒地に白抜き文字）されます。



4. トップパネルのMARK (I◀◀) ボタンを押すと、メニュー画面の項目選択状態に戻ります。
5. フロントパネルのHOME/DISPボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

録音一時停止後の録音設定をする

録音中に、フロントパネルのPAUSEボタンを押して録音待機状態にし、再度RECボタンを押して録音を再開したときに、新しいテイクに録音を行うのか、今までのテイクに継続して録音を行うのかの設定をします。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“REC”ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“PAUSE”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。



3. DATAホイールを使って、以下の中から設定します。

選択肢

SAME TAKE（初期値）：今までのテイクに継続して録音を行います。

NEW TAKE：新しいテイクに録音を行います。

4. トップパネルのMARK (I◀◀) ボタンを押すと、メニュー画面の項目選択状態に戻ります。
5. フロントパネルのHOME/DISPボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

録音するテイク名を設定する

テイク名を設定します。

日付または“USER WORD”画面で、3つまで設定することができます。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“REC”ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“NAME”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。



3. DATAホイールを使って、以下の中から設定します。
選択肢

DATE（初期値）：日付をテイク名にします。

USER 1：“USER WORD”画面で設定したテイク名をつけます。

USER 2：“USER WORD”画面で設定したテイク名をつけます。

USER 3：“USER WORD”画面で設定したテイク名をつけます。

4. トップパネルのMARK (I◀◀) ボタンを押すと、メニュー画面の項目選択状態に戻ります。
5. フロントパネルのHOME/DISPボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

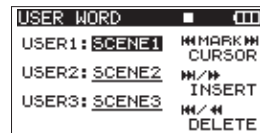
ユーザーワードの編集をする

テイク名に使用できるユーザーワードを、“USER WORD”画面で3つまで設定することができます。

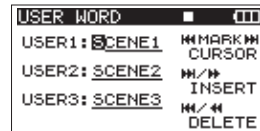
1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“REC”ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“NAME”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。



3. MARK (▶▶) ボタンを押して、“USER WORD”画面を表示します。



4. DATAホイールを使って編集したい初期名を選択し、ENTER/MARKボタンを押します。



5. 以下のトップパネルの操作ボタンを使ってユーザーワードを編集します。

MARK (I◀◀ / ▶▶) ボタン：カーソル（反転表示部）を移動します。

DATAホイール：文字を選択します。

▶▶ [▶▶] ボタン：カーソル位置にスペースを挿入します。

◀◀ [I◀◀] ボタン：カーソル位置の文字を削除します。

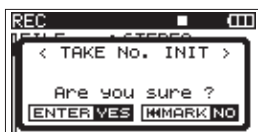
6. 編集を終了するには、ENTER/MARKボタンを押します。
7. フロントパネルのHOME/DISPボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

テイク名の番号の初期化

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“REC”ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って、“TAKE NO. INIT”項目を選択（反転表示）します。



3. トップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、確認のポップアップメッセージを表示します。



4. 再度ENTER/MARKボタンを押すと、設定された文字に続く数字が“0000”から始まります。トップパネルのMARK (◀◀) ボタンを押すと、“REC”画面の項目選択状態に戻ります。
5. フロントパネルのHOME/DISPボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

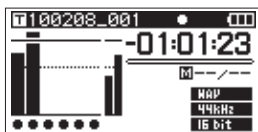
録音可能時間表示

SDカードの容量やファイルフォーマット、ファイルモード、サンプリング周波数の設定に応じて、録音時間が異なります。(→ 39ページ「録音時間について」)

挿入しているSDカードの録音可能時間は、ホーム画面で確認することができます。

録音中または録音待機中にフロントパネルのHOME/DISPLAYボタンを押すこと、録音経過時間と残り録音可能時間の表示を切り換えることができます。

残り録音可能時間を表示しているときは、マイナス時間表示となります。



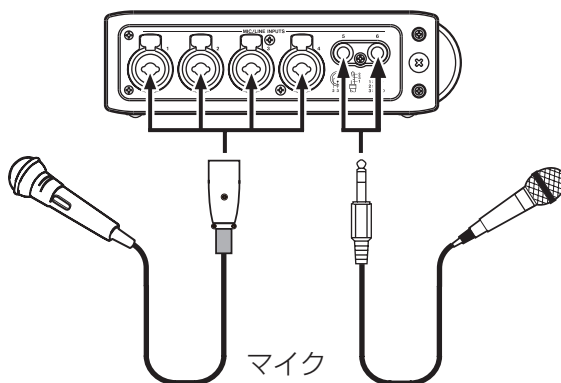
テイクの保存先を設定する

録音したテイクの保存するフォルダーを設定します。(→ 41ページ「フォルダー操作」)

特に指定しない場合は、《MUSIC》フォルダーの下に自動作成される“PROJECT0000”フォルダーにテイクが保存されます。

接続をする

マイクなどの外部機器を、以下の図のように接続します。



入力の設定をする

本機の入力は、アナログマイク／ライン入力6つとデジタル入力（ステレオ入力）があります。

録音トラックは、6トラック＋ステレオトラックの合計8トラックあります。

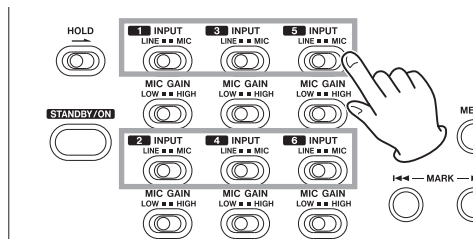
各トラックに録音されるソースは、以下の通りです。

トラック	録音ソース
トラック1 / 2	アナログ入力1 / 2
トラック3 / 4	アナログ入力3 / 4
トラック5 / 6	アナログ入力5 / 6、 またはデジタル入力
ステレオトラック	アナログ入力1～6のステレオミックス、 またはデジタル入力

ステレオトラックの録音ソースの選択は、メニュー画面の“REC”ページで行います。（→ 27ページ「ステレオトラックの録音設定をする」）

入力ソースの選択をする

トップパネルのINPUTスイッチを使って、各トラックに録音する入力ソースをマイク入力にするのか、ライン入力にするのかを選択します。



LINE :

外部機器のライン出力端子を本機器のアナログ入力に接続した場合は、「LINE」に設定します。

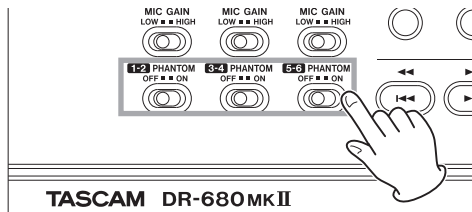
MIC :

マイクを本機に接続した場合は、「MIC」に設定します。

ファントム電源について

本機は、コンデンサーマイクに+48Vのファントム電源を供給することができます。

トップパネルのPHANTOMスイッチで、該当するマイク入力1-2、3-4、5-6へのファントム電源供給のオン／オフを行います。



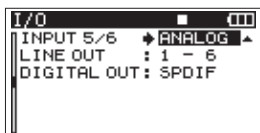
注意

- MIC/LINE INPUTS端子（XLR/TRS）のTRS側にもファントム電源を供給します。ファントム電源が供給されている状態でライン機器を接続すると、ライン機器および本機の故障の原因になります。
- MIC/LINE INPUTS端子にライン機器を接続する場合は、PHANTOMスイッチが「OFF」になっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でライン機器を接続すると、ライン機器および本機の故障の原因になります。
- PHANTOMスイッチを「ON」にした状態で、マイクの抜き差しをしないでください。大きなノイズが発生し、本機および接続中の機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、PHANTOMスイッチを「ON」にしてください。ファントム電源を必要としないダイナミックマイクなどを接続しているときにファントム電源を「ON」にすると、本機および接続中の機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクとダイナミックマイクを合わせて使用する場合、必ずバランスタイプのダイナミックマイクをご利用ください。アンバランスタイプのダイナミックマイクを混用することはできません。
- リボンマイクの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクにファントム電源を供給しないでください。

トラック5 / 6の録音ソースを選択する

トラック5 / 6には、アナログマイク／ライン入力か、デジタル入力のどちらかを録音することができます。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“**I/O**” ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“**INPUT 5/6**”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。



3. DATAホイールを使って“**ANALOG**”（初期値）あるいは“**DIGITAL**”を選択します。

選択肢

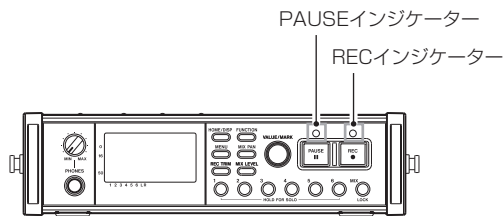
- ANALOG**（初期値） : アナログ入力5 / 6の信号をトラック5 / 6に録音します。
- DIGITAL** : デジタル入力信号をトラック5 / 6に録音します。

メモ

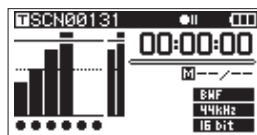
“**ST REC**”項目が“**DIN**”に設定されている場合は、この設定は無視されて、常に“**ANALOG**”設定で動作します。

入力レベルを調節する

1. フロントパネルのPAUSEボタンを押して、録音待機状態にします。
フロントパネルのPAUSEインジケータとRECインジケータが点灯します。

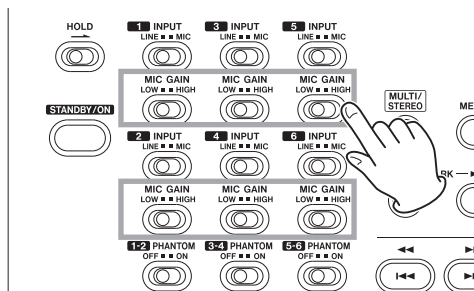


2. フロントパネルのチャンネル番号ボタン（1～6ボタン）およびMIX [LOCK] ボタンを押して、録音したいトラックのレコードファンクションをオンにします。
レコードファンクションがオンになっているトラックは、ディスプレイのレベルメーターの下に“**REC**”アイコンが表示されます。



メモ

- 録音ファイルモードを“**STEREO**”に設定した場合は、レコードファンクションは2チャンネルごとにオン／オフされます。録音ファイルモードを“**6ch**”に設定した場合は、レコードファンクションのオン／オフはできません。
 - レコードファンクションのオン／オフは、停止／再生状態から録音待機状態になったときのみ切り換え可能です。録音状態からの録音待機やオートレック機能による録音待機状態では、切り換えはできません。
3. マイクを接続しているときは、トップパネルのMIC GAINスイッチを設定します。最初は、“**LOW**”に設定します。

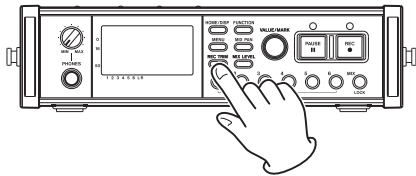


メモ

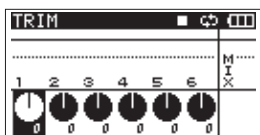
トップパネルのINPUTスイッチが「**LINE**」に設定されているときは、トップパネルのMIC GAINスイッチは機能しません。

第4章 録音

4. フロントパネルのREC TRIMボタンを押します。



“TRIM”画面（インプットリム設定画面）が表示されます。



5. この画面で入力レベルを調節します。フロントパネルのチャンネル番号ボタン（1～6ボタン）を使って調節したい入力チャンネルを選択（反転表示）します。

メモ

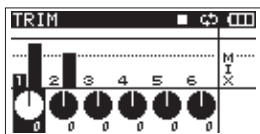
複数チャンネルを連動して同時に操作することも可能です。（→ 51ページ「複数チャンネルを同時に設定する（GANG）」）

6. フロントパネルのVALUE/MARKダイヤルで適切な入力レベルになるように調節します。調節範囲は、±“32”dBです。（初期値：“0”dB）

注意

マイクを使って録音を行う場合は、以下の点にご注意ください。

- 入力段で歪まないように入力レベルを調節してください。入力段で歪んでいる場合は、“TRIM”画面のレベルメーター左のチャンネル表示部分が反転表示します。この場合、レベルメーターのオーバーロード表示が点灯していないにもかかわらず、歪んだ音が録音されてしまう場合があります。



- 入力レベルを調節する際は、まずトップパネルのMIC GAINスイッチの設定を「LOW」にし、“TRIM”画面で入力レベルを調節してください。“TRIM”画面の入力レベル調節を最大にしても適切な入力レベルにならない場合は、トップパネルのMIC GAINスイッチの設定を「HIGH」にしてください。

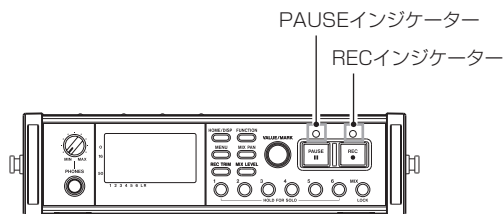
ヒント

- 入力レベルの調節は“TRIM”画面の入力レベル調節だけでなく、マイクと音源との距離や向きを調節してみてください。また、マイクの向きや音源との距離によって音質が変わります。
 - 大きな音が入力されても歪んで録音されないようにリミッター機能を利用することができます。（→ 37ページ「リミッターを使う」）
7. ホーム画面に戻るには、フロントパネルのREC TRIMボタンかHOME/DISPボタンを押します。

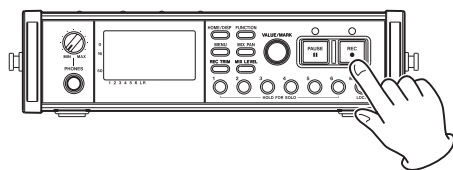
録音する

以下の操作手順は、すでに入力ソースが設定され、入力レベル調節を行い、ホーム画面が表示されて、停止していることを前提にしています。

1. フロントパネルのPAUSEボタンを押して、録音待機状態にします。フロントパネルのPAUSEインジケータとRECインジケータが点灯します。



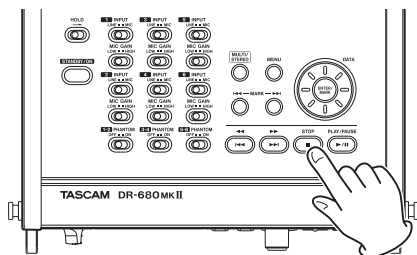
2. フロントパネルのRECボタンを押すと、録音が始まります。録音中は、RECインジケータが点灯し、ディスプレイには録音経過時間、または残り録音可能残時間が表示されます。



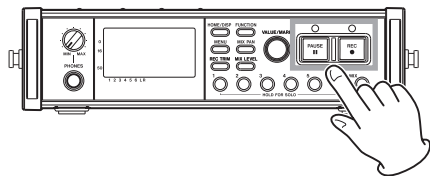
メモ

PAUSEボタンを押さずに最初にRECボタンを押して、録音を開始することもできます。

3. 録音を終了するには、トップパネルの**STOP**ボタンを押します。



録音を一時停止するには、**PAUSE**ボタンを押します。再度**REC**ボタンを押すと、録音が再開されます。



メモ

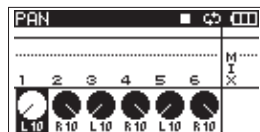
録音を一時停止したあとに録音を再開した場合に、同じテイクに続けて録音するのか、新しいテイクに録音をするのかの設定ができます。(→ 27ページ「録音一時停止後の録音設定をする」)

3. フロントパネルの**VALUE/MARK**ダイヤルで適切な録音レベルになるように調節します。調節範囲は、“0”～“100”です。(初期値：“100”)

メモ

一番右の“**MIX**”レベルメーターの一番上のオーバーロード表示が点灯しないように、レベル調節を行ってください。

4. 次にフロントパネルの**MIX PAN**ボタンを押して、“**PAN**”画面（パンポット設定画面）を表示します。



5. この画面で各チャンネルのパンポットを調節します。フロントパネルのチャンネル番号ボタン（1～6ボタン）を使って、調節したいチャンネルを選択（反転表示）します。

メモ

複数チャンネルを連動して同時に操作することも可能です。(→ 51ページ「複数チャンネルを同時に設定する(GANG)」)

6. **VALUE/MARK**ダイヤルで適切なステレオ定位になるように調節します。調節範囲は、“**L10**”～“**L1**”（左）、“**0**”（センター）、“**R1**”～“**R10**”（右）です。(初期値:奇数チャンネル“**L10**”、偶数チャンネル“**R10**”)

メモ

ミックスバランスが適切になるように、パンポットを調節してください。また、ステレオミックスのレベルは、“**MIX**”レベルメーター（一番右のレベルメーター）で確認できます。

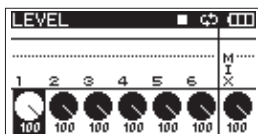
7. 設定が終了したら、フロントパネルの**HOME/DISP**ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

ステレオミックスを録音する

本機は、最大6トラックに加えて、6つの入力を内部ミキサーでステレオミックスし、ステレオトラックに同時に録音することができます。

以下の操作手順は、すでに各トラックの入力ソースが設定され、各トラックの入力レベル調節を行い、ホーム画面が表示されていることを前提にしています。

1. フロントパネルの**MIX LEVEL**ボタンを押して、“**LEVEL**”画面（レベル設定画面）を表示します。



2. この画面で各チャンネルのミックスレベル、およびステレオトラックの録音レベルを調節します。フロントパネルのチャンネル番号ボタン（1～6ボタン）および**MIX [LOCK]**ボタンを使って、調節したいチャンネルを選択（反転表示）します。

メモ

複数チャンネルを連動して同時に操作することも可能です。(→ 51ページ「複数チャンネルを同時に設定する(GANG)」)

異なる入力レベルで同時に2系統の録音をする (DUAL REC)

本機では、通常の録音とは別に、異なる入力レベルでもう1つの録音を同時に行うことができます。たとえば、マイク録音を行う際に、片方はできるだけ入力レベルを上げた状態で通常の録音をし、安全のために入力レベルを-12dB下げたもう1つの録音を同時にするということができます。

録音テイクは、2個（通常録音における入力レベルのテイクとそのレベルから-12dB下げた入力レベルのテイク）で保存されます。

本機でデュアル録音を行うときに使える入力は、**MIC/LINE INPUTS**の1/3/5端子の3つです。

通常のレベルの音声はミキサの1/3/5チャンネルを使用し、1/3/5トラックに記録されます。

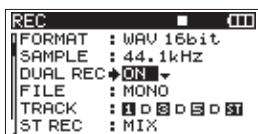
下げたレベルの音声はミキサの2/4/6チャンネルを使用して、別テイクの1/3/5トラックに記録されます。

メモ

- デュアル録音されたファイルは、モノラルファイルになります。
- 通常の録音における入力レベル設定は、従来の方法で行ってください。（→ 31ページ「入力レベルを調節する」）

デュアル録音の設定をする

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“REC”ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“DUAL REC”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。



3. DATAホイールを使って、以下の中から設定します。
選択肢：“OFF”（初期値），“ON”
4. トップパネルのMARK (I◀◀) ボタンを押すと、メニュー画面の項目選択状態に戻ります。
5. フロントパネルのHOME/DISPボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

メモ

- ステレオファイルと6chファイルモードは選択できません。
- MSモードは、解除されます。
- GANG設定は、解除されます。
- 録音状態に入ったところで、2/4/6chのSoloは解除されます。

デュアル録音を開始する

RECボタンを押すと、デュアル録音が始まります。

デュアル録音時は、ホーム画面のデュアル側（2/4/6）のチャンネルに“D”が表示されます。



デュアル録音時のテイク名

デュアル録音を行うと、2つのファイルが同時に作成されます。デュアル録音されたもう1つのファイルのテイク名は、通常録音されたファイルのテイク名に「_D」が追加された名前になります。

SCN0127_001

① ②

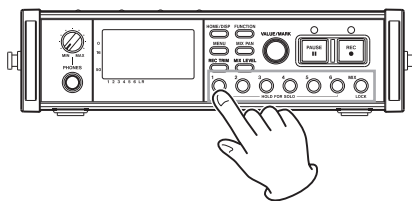
SCN0127_001_D

① ② ③

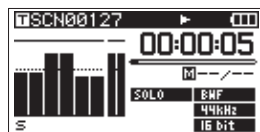
- ①：メニュー画面の“REC”ページの“NAME”項目の設定による
- ②：録音ファイルの基本番号
- ③：“_D”→デュアル録音テイク

ソロ機能を使う

フロントパネルのチャンネル番号ボタン（1~6ボタン）を長押しすると、該当するチャンネルのソロモニターができます。



ソロモニター中は、ホーム画面上の“SOLO”が点灯し、該当チャンネルの“S”アイコンが点灯します。



ソロモニターをオフするには、再度該当チャンネルのチャンネル番号ボタン（1~6ボタン）を長押しします。

メモ

ソロモニターは、ヘッドホンまたは内蔵スピーカーでのみ行うことができます。

録音を自動で開始／一時停止させる (オートレック)

オートレック機能をオンにすると、入力音のレベルに応じて、録音の開始／停止または一時停止を自動で行うことができます。

メモ

全ての入力チャンネルで、設定レベル以下の状態を1秒以上検出したあと、いずれかの入力チャンネルで設定レベル以上の入力を検出すると録音を開始します。また、無音部分をカットして録音する、または録音を自動で再開した位置にマークを付けることができます。

オートレック機能を使う

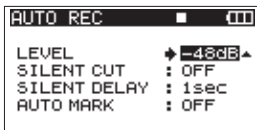
1. ホーム画面表示中にフロントパネルのFUNCTIONボタンを押して、ファンクション画面を表示します。
2. フロントパネルのVALUE/MARKダイヤルでカーソル（「**Q**」アイコン）を移動して“**A.REC**”項目を選択します。
3. VALUE/MARKダイヤルを押すと、オートレック機能のオン/オフを行います。
オートレック機能がオンになっていると“**A.REC**”が反転表示（黒地に白抜き文字）します。



4. 設定が終了したら、HOME/DISPボタンを押してホーム画面に戻ります。

オートレック機能の設定

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“**AUTO REC**”ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“**LEVEL**”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。



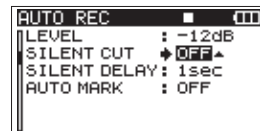
3. DATAホイールを使って、信号が入力されたと判断する基準レベルを“**-6dB**”、“**-12dB**”（初期値）、“**-24dB**”、“**-48dB**”の中から設定します。
4. 設定が終了したら、フロントパネルのHOME/DISPボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

5. フロントパネルのPAUSEボタンを押して、録音待機状態にします。
入力音が“**LEVEL**”項目で設定した基準レベルを上回ると自動で録音を開始します。

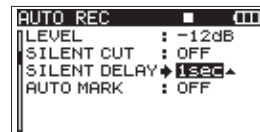
録音中に自動で不要な無音部分をカットする (サイレントカット)

録音中に一定時間の無音部分を検出すると一時停止し、そのあと信号が入力されると再び録音を開始します。
不要な無音部分をカットしながら録音できるため、SDカードの容量を節約できます。

1. 前述のファンクション画面の“**A.REC**”項目の設定、およびメニュー画面の“**AUTO REC**”ページの“**LEVEL**”項目の設定をします。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“**SILENT CUT**”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。
3. DATAホイールを使って、“**ON**”に設定します。（初期値：“**OFF**”）



4. MARK (◀◀) ボタンを押して、メニュー画面の“**AUTO REC**”ページの項目選択状態にします。
5. DATAホイールを使って“**SILENT DELAY**”項目を選択（反転表示）し、MARK (▶▶) ボタンを押します。

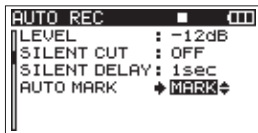


6. DATAホイールを使って、録音を一時停止させるための無音検出時間を“**1SEC**”～“**5SEC**”（初期値：“**1SEC**”）の中から設定します。
7. 設定が終了したら、フロントパネルのHOME/DISPボタンを押してホーム画面に戻ります。
8. フロントパネルのPAUSEボタンを押して、録音待機状態にします。
入力音が“**LEVEL**”項目で設定した基準レベルを上回ると自動で録音を開始します。
入力音が設定時間以上の間、“**LEVEL**”項目で設定した基準レベルを下回ると、自動で録音を一時停止します。
そのあと再度“**LEVEL**”項目で設定した基準レベルを上回ると、自動で録音を開始します。

録音を自動で再開した位置にマークを付ける

録音中に入力レベルが設定したオートレックレベルを1秒以上下回ったあと、オートレックレベル以上の入力を検知したときに、マークをつけるか、テイクを更新するかを設定します。

1. 前述のファンクション画面の“**A.REC**”項目の設定、およびメニュー画面の“**AUTO REC**”ページの“**LEVEL**”項目の設定をします。
2. トップパネルの**DATA**ホイールを使って“**AUTO MARK**”項目を選択（反転表示）し、トップパネルの**ENTER/MARK**ボタンを押します。
3. **DATA**ホイールを使って、“**MARK**”または“**TAKE**”に設定します。



選択肢

OFF（初期値）：オートマーク機能オフ

MARK：録音中に入力レベルが設定したオートレックレベルを1秒以上下回ったあと、オートレックレベル以上の入力を検知したときに、その位置にマークを付けます。このとき、同じテイクに続けて録音を行います。

TAKE：録音中に入力レベルが設定したオートレックレベルを1秒以上下回ったあと、オートレックレベル以上の入力を検知したときに、新しいテイクとして録音を続けます。サイレントカット機能で一時停止後は、新しいテイクに録音を再開します。

4. 設定が終了したら、フロントパネルの**HOME/DISP**ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。
5. フロントパネルの**PAUSE**ボタンを押して、録音待機状態にします。自動で録音を開始した位置にマークを付ける、あるいは、新たなテイクとして録音を開始します。

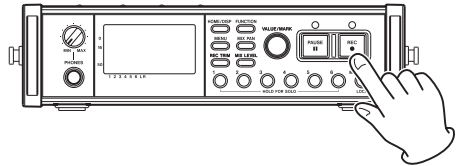
トラックインクリメント

本機の最大録音ファイルサイズは、2GBです。

録音中にファイルサイズが2GBになると、自動的に現在のテイクへの録音を停止し、新しいテイクに録音を継続します。

録音中に手でトラックインクリメントする

録音中にフロントパネルの**REC**ボタンを押すと、手でテイクを更新し録音を継続することができます。



メモ

- 新しいテイクが作成されると、テイク名の末尾の数字が繰り上がります。
- トラックインクリメントを使用する、または使用が予想される場合には、同一フォルダー内のテイク数はできるだけ少なくしてください。
- 同一フォルダー内の最大テイク数の目安は100程度です。

注意

- テイク数が1000個を超える場合や、フォルダーとファイルの総数が5000個を超える場合は、新たなテイクは作成できません。
- 録音時間が4秒以内のテイクを作成することはできません。
- 新たに作成するテイクのテイク名がすでに存在する場合は、更に数字が繰り上がります。

ファイルサイズで自動的にトラックインクリメントする

録音中に1つのファイルサイズが以下の条件に達すると、自動的に現在のテイクへの録音を停止し、新しいテイクに録音を継続します。

WAV/BWF

ファイルサイズが2GBに達したとき。

MP3

ファイルサイズが2GB、または録音時間が24時間に達したとき。

注意

テイク数が1000個を超える場合や、フォルダーとファイルの総数が5000個を超える場合は、新たなテイクは作成できません。

メモ

ファイルフォーマットやファイルモードによっては、同じ最大ファイルサイズにおける録音時間が異なります。

リミッターを使う

リミッター機能をオンにすると、入力レベルが大きすぎる場合でも歪まないように、入力レベルを自動的に調節します。

1. ホーム画面表示中にフロントパネルの**FUNCTION**ボタンを押して、ファンクション画面を表示します。
2. フロントパネルの**VALUE/MARK**ダイヤルでカーソル（**□** アイコン）を移動して**“LIMITER”**項目を選択します。
3. **VALUE/MARK**ダイヤルを押します。
4. **VALUE/MARK**ダイヤルを押すと、全チャンネルのリミッターのオン/オフを行います（初期値：全チャンネルオフ）。
フロントパネルのチャンネル番号ボタン（1～6ボタン）でチャンネル毎にオン/オフします。
どれか1つのチャンネルのリミッターがオンになっていると**“LIMITER”**が反転表示（黒地に白抜き文字）します。



5. 設定が終了したら、**HOME/DISP**ボタンを押してホーム画面に戻ります。

ローカットフィルターを使う

ローカットフィルターを使うと、低域のノイズを低減することができます。録音する条件に合わせて、カットオフ周波数を40Hz、80Hz、120Hzの中から選択することができます。

ローカットフィルターのオン/オフ設定

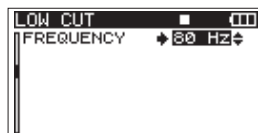
1. ホーム画面表示中にフロントパネルの**FUNCTION**ボタンを押して、ファンクション画面を表示します。
2. フロントパネルの**VALUE/MARK**ダイヤルでカーソル（**□** アイコン）を移動して**“LOW CUT”**項目を選択します。
3. **VALUE/MARK**ダイヤルを押します。
4. **VALUE/MARK**ダイヤルを押すと、全チャンネルのローカットフィルターのオン/オフを行います（初期値：全チャンネルオフ）。
フロントパネルのチャンネル番号ボタン（1～6ボタン）でチャンネル毎にオン/オフします。どれか1つのチャンネルのローカットフィルターがオンになっていると**“LOW CUT”**が反転表示（黒地に白抜き文字）します。



5. 設定が終了したら、**HOME/DISP**ボタンを押してホーム画面に戻ります。

ローカットフィルターのカットオフ周波数設定

1. **MENU**ボタンを押して、メニュー画面の**“LOW CUT”**ページを表示します。
2. トップパネルの**DATA**ホイールを使って、カットオフ周波数を**“40Hz”**、**“80Hz”**（初期値）、**“120Hz”**の中から設定します。

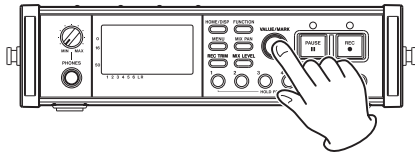


3. 設定が終了したら、フロントパネルの**HOME/DISP**ボタンを押してホーム画面に戻ります。

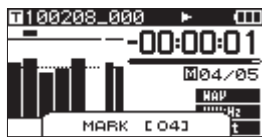
マーク機能

録音中／再生中に手動でマークを付ける

録音中または再生中にフロントパネルのVALUE/MARKダイヤルを押すと、任意の位置にマークを付けることができます。



このとき、マーク番号がディスプレイにプルアップ表示されます。

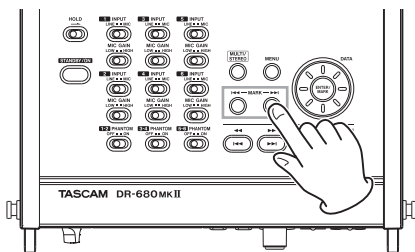


メモ

- 録音一時停止状態から再び録音を開始するときには、常にマークが付けられます。
マークは、テイクごとに“01”～“99”まで設定でき、テイクにマークの情報を記録します。
- 再生中にマークを追加した場合は、その時点ではファイルに保存されず、停止したときに保存されます。
停止しないでトップパネルの◀◀ [I◀◀] ボタンや▶▶ [▶▶] ボタンでテイクを変えた場合は、追加したマークは保存されません。

マークの位置への移動

停止中または再生中にトップパネルのMARK (I◀◀ / ▶▶I) ボタンを押すと、選択されているテイクに記録されているマークの位置へ移動することができます。



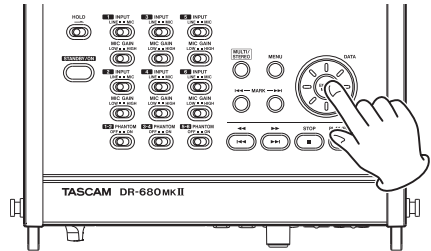
頭出しのためのインデックスのように使用することができます。

メモ

異なるテイクのマークへの移動はできません。

マークの削除

トップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、現在の位置に記録されているマークが削除されます。



メモ

再生中にマークを削除した場合は、その時点ではファイルから削除されず、停止したときにファイルから削除されます。
停止しないでトップパネルの◀◀ [I◀◀] ボタンや▶▶ [▶▶] ボタンでテイクを変えた場合は、マークの削除は保存されません。

録音開始の少し前から録音する (プリレック)

録音待機中に入力される信号を最大2秒間録音しておき、録音開始時に最大2秒前からの信号を録音することができます。

- ホーム画面表示中にフロントパネルのFUNCTIONボタンを押して、ファンクション画面を表示します。
- フロントパネルのVALUE/MARKダイヤルでカーソル (◻) アイコンを移動して“PRE.REC”項目を選択します。
- VALUE/MARKダイヤルを押すと、プリレック機能のオン/オフを行います。
プリレック機能がオンになっていると“PRE.REC”が反転表示 (黒地に白抜き文字) します。



- 設定が終了したら、HOME/DISPボタンを押してホーム画面に戻ります。

ヒント

オートレック機能と組み合わせることにより、出音の部分を欠かすことなく録音できます。

メモ

録音待機状態になってから2秒以内に録音を開始した場合は、録音待機状態にした時点からの録音となります。

録音時間について

各ファイルフォーマットにおける、SD/SDHC/SDXCカード容量別の録音時間を以下の表に示します。

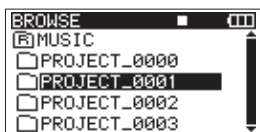
WAV / BWF			SD/SDHC/SDXCカード容量						
Fs [kHz]	ビット長 [bit]	トラック 数	2	4	8	16	32	64	128
44.1	16	6	1時間02分	2時間05分	4時間11分	8時間23分	16時間47分	33時間35分	67時間11分
		8	47分	1時間34分	3時間08分	6時間17分	12時間35分	25時間11分	50時間23分
	24	6	42分	1時間23分	2時間47分	5時間35分	11時間11分	22時間23分	44時間47分
		8	31分	1時間02分	2時間05分	4時間11分	8時間23分	16時間47分	33時間35分
48	16	6	57分	1時間55分	3時間51分	7時間42分	15時間25分	30時間51分	61時間43分
		8	43分	1時間26分	2時間53分	5時間47分	11時間34分	23時間08分	46時間17分
	24	6	38分	1時間17分	2時間34分	5時間08分	10時間17分	20時間34分	41時間09分
		8	28分	57分	1時間55分	3時間51分	7時間42分	15時間25分	30時間51分
96	16	6	28分	57分	1時間55分	3時間51分	7時間42分	15時間25分	30時間51分
		8	21分	43分	1時間26分	2時間53分	5時間47分	11時間34分	23時間08分
	24	6	19分	38分	1時間17分	2時間34分	5時間08分	10時間17分	20時間34分
		8	14分	28分	57分	1時間55分	3時間51分	7時間42分	15時間25分
192	16	2	43分	1時間26分	2時間53分	5時間47分	11時間34分	23時間08分	46時間17分
	24	2	28分	57分	1時間55分	3時間51分	7時間42分	15時間25分	30時間51分
MP3			SD/SDHC/SDXCカード容量						
	ビットレート [kbps]	トラック 数	2	4	8	16	32	64	128
	96	4	23時間08分	46時間17分	92時間35分	185時間	370時間	740時間	1481時間
	128		17時間21分	34時間43分	69時間26分	138時間	277時間	555時間	1111時間
	192		11時間34分	23時間08分	46時間17分	92時間35分	185時間	370時間	740時間
	320		6時間56分	13時間53分	27時間46分	55時間33分	111時間	222時間	444時間

- 上記録音時間は目安です。ご使用のSD/SDHC/SDXCカードにより異なる場合があります。
- 上記録音時間は連続録音時間ではなく、SD/SDHC/SDXCカードに可能な録音合計時間です。

第5章 テイクやフォルダーの操作 (BROWSE画面)

“BROWSE”画面では、SDカード上の“MUSIC”フォルダー(テイクの収納フォルダー)の内容を見ることができます。

“BROWSE”画面を表示するには、トップパネルのMENUボタンを押してメニュー画面の“GENERAL”ページを表示し、DATAホイールを使って“BROWSE”項目を選択(反転表示)し、ENTER/MARKボタンを押します。



この画面には、“BROWSE”画面を表示する前に、ホーム画面で選択されていたテイクを含むフォルダーの内容が表示されます。

BROWSE画面内のナビゲーション

“BROWSE”画面には、パソコンにおけるファイルのリスト表示のように、フォルダーや音楽テイクが「階層ツリー形式」で表示されます。フォルダーは、“MUSIC”フォルダーの直下に1階層作成できます。

- トップパネルのDATAホイールを使って、テイクやフォルダーを選択(反転表示)します。
- フォルダーが反転中にトップパネルのMARK (▶▶) ボタンを押すと、フォルダーの内容が表示されます。
- テイクやフォルダーが反転中にトップパネルのMARK (◀◀) ボタンを押すと、現在開いているフォルダーが閉じて、上位の階層レベルが表示されます。
- フォルダーやテイクが反転中にトップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、ポップアップメニューが表示されます。

BROWSE画面内のアイコン表示

以下に“BROWSE”画面内のアイコン表示内容を説明します。

MUSICフォルダー (📁MUSIC)

ルート(ROOT)階層表示中の“BROWSE”画面では、最上段にMUSICフォルダーが表示されます。

テイク (🎵)

テイクは、(🎵)のあとにテイク名が表示されます。

フォルダー (📁)

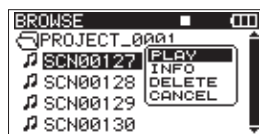
フォルダーです。

表示中のフォルダー (📁)

現在、このフォルダーの内容を画面表示しています。

テイク操作

“BROWSE”画面内の希望のテイクを選択(反転表示)し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。



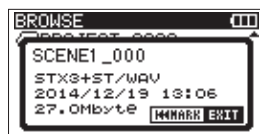
トップパネルのDATAホイールを使って希望の項目を選択(反転表示)し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、本機が以下の動作を行います。

PLAY

ホーム画面に戻り、選択したテイクを再生します。再生範囲設定が“FOLDER”の場合は、このファイルを含むテイクが再生範囲になります。

INFO

選択したテイクの情報が表示されます。



再度トップパネルのENTER/MARKボタンまたはMARK (◀◀) ボタンを押すと、“BROWSE”画面に戻ります。

DELETE

選択したテイクを削除する確認のポップアップメッセージが表示されます。



トップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、テイクが削除されたあと、“BROWSE”画面に戻ります。

トップパネルのMARK (◀◀) ボタンを押すと、削除が中止されポップアップメニューが表示された“BROWSE”画面に戻ります。

CANCEL

選択中のテイクに関する操作をキャンセルします。

フォルダー操作

“BROWSE”画面内の希望のフォルダーを選択 (反転表示) し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。



トップパネルのDATAホイールを使って希望の項目を選択 (反転表示) し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、本機が以下の動作を行います。

SELECT

ホーム画面に戻り、選択したフォルダー内の最初のテイクが選択されます。また、この操作で選択 (反転表示) されたフォルダーに、録音したテイクが保存されます。

CREATE

新たなフォルダーを作成する確認のポップアップメッセージが表示されます。



トップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、フォルダーが作成されます。また、この操作で選択 (反転表示) されたフォルダーに、録音したテイクが保存されます。

トップパネルのMARK (I◀◀) ボタンを押すと、フォルダーの作成が中止され、ポップアップメニューが表示された“BROWSE”画面に戻ります。

ALLDEL

選択 (反転表示) したフォルダー内のテイクを一括削除する確認のポップアップメッセージが表示されます。



トップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、テイクが削除されたあと“BROWSE”画面に戻ります。

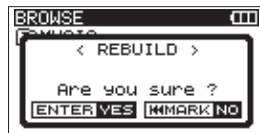
トップパネルのMARK (I◀◀) ボタンを押すと、削除が中止され、ポップアップメニューが表示された“BROWSE”画面に戻ります。

メモ

書き込み禁止ファイルや本機で認識されていないファイルは、削除されません。

REBUILD (リビルド)

選択 (反転表示) したフォルダー内のリビルドを行う確認のポップアップメッセージが表示されます。



リビルドを行うと、選択中のフォルダー内のテイク情報が更新され、テイクに含まれないファイルを、1つのテイクとして認識し、再生可能とします。パソコンからファイルをコピーしたあとなどに、この操作を行います。

トップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、リビルドが実行されたあと“BROWSE”画面に戻ります。

トップパネルのMARK (I◀◀) ボタンを押すと、リビルドが中止され、ポップアップメニューが表示された“BROWSE”画面に戻ります。

また、以下のルールでファイル名を付けた場合は、自動的に複数のファイルを1つのテイクとして登録します。ただし、フォーマット (WAV/BWFかMP3)、Fs (サンプリング周波数)、Bit (量子化ビット数、WAV/BWFの場合)、ビットレート (MP3の場合) ファイルタイプ (モノラルかステレオ)、ファイルサイズが全て同じ場合に限りです。

● ファイル名ルール (WAV/BWFの例)

モノラルファイルの場合

XXXX_monoY.wav
① ② ③

ステレオファイルの場合

XXXX_stY.wav
① ②③

- ① : テイク名部分 (半角英数字10文字以内)
- ② : ファイルタイプ名 (monoまたはst)
- ③ : トラック番号 (モノラルの場合は1から6までの数、ステレオの場合は1,2,3,4,5,6のいずれか)

メモ

- 本機がサポートしているファイル形式以外のファイルは、リビルドをしても本機器で再生できません。
- テイク名に半角英数字以外の文字が使われているファイルは、再構築できません。

CANCEL

選択中 (反転表示) のフォルダーに関する操作をキャンセルします。

第6章 再生

ホーム画面上では、トップパネルの◀◀ [I◀◀] ボタンまたは▶▶ [▶▶] ボタンを使って再生するテイクを選びます。このときに選択可能なテイクの範囲を「再生範囲」として設定することができます。SDカード上に数多くのテイクが記録されている場合など、選択範囲を限定することにより選択が容易になります。

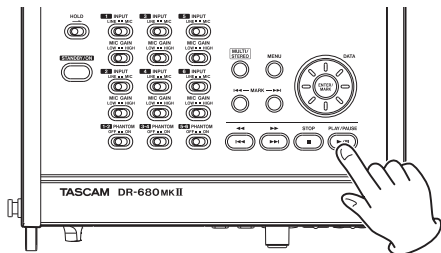
メニュー画面の“PLAY” ページで、再生範囲を全テイク、現在のフォルダー、現在ロードされているテイクの中から選択することができます。また、“BROWSE” 画面を使って希望のフォルダーを再生範囲に設定することができます。

メモ

“BROWSE” 画面では、再生範囲設定にかかわらず、SDカード上の希望のテイクを再生することができます。

再生する

ホーム画面で、停止中にトップパネルのPLAY/PAUSEボタンを押すと、再生を始めます。



メモ

- 再生できるテイクは、再生範囲内のテイクです。(→ 44ページ「再生範囲を設定する」)
- “BROWSE” 画面でテイク名を選択して再生させることもできます。

停止する

ホーム画面で、再生中にトップパネルのSTOPボタンを押すと、テイクの先頭に戻り再生を停止します。

一時停止する

ホーム画面で、再生中にトップパネルのPLAY/PAUSEボタンを押すと、その位置で一時停止します。再度PLAY/PAUSEボタンを押すと、その位置から再生を始めます。

早戻し／早送りをする（サーチ）

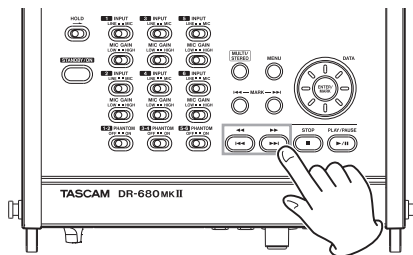
ホーム画面で、停止中または再生中にトップパネルの◀◀ [I◀◀] ボタン／▶▶ [▶▶] ボタンを押し続けると、早戻し／早送りサーチ再生を行います。

メモ

サーチスピードを設定することができます。

再生するテイクを選択する（スキップ）

ホーム画面で、トップパネルの◀◀ [I◀◀] ボタンまたは▶▶ [▶▶] ボタンを押して、再生したいテイクを選択します。



テイクの途中で◀◀ [I◀◀] ボタンを押すとテイクの先頭へ戻り、テイクの先頭で◀◀ [I◀◀] ボタンを押すと1つ前のテイクの先頭にスキップします。

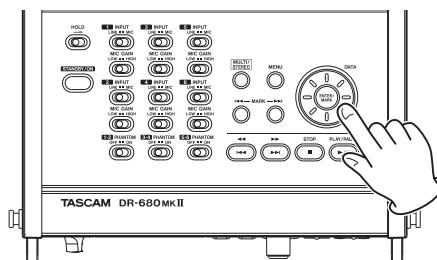
テイクの先頭、または途中で▶▶ [▶▶] ボタンを押すと、次のテイクへスキップします。

メモ

- 再生できるテイクは、再生範囲内のテイクです。
- 再生中のテイク情報（曲名など）がディスプレイ上に表示されます。

再生位置を移動する

ホーム画面で、停止中または再生中にトップパネルのDATAホイールを使って、再生位置を移動することができます。



メモ

- DATAホイールを回している間、音声は出力されません。
- 再生中にDATAホイールを回すと、DATAホイールを停止した位置から再生を再開します。

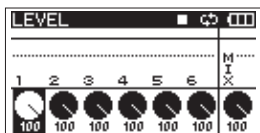
マルチトラックをミックスして出力する

マルチトラック録音した音声を再生するときに、内部ミキサーを使ってステレオにミックスし、出力することができます。

トラック1～6の再生音をミキサーのチャンネル“1”～“6”で調節します。また、全体のミックスレベルも調節できます。内部ミキサーでミックスしたステレオミックスは、PHONES端子または内蔵モノラルスピーカー、DIGITAL/SYNC OUT端子から出力することができます。また、メニュー画面の“1/0”ページの設定で、“LINE OUT”項目が“MIX”に設定されているときは、ステレオミックスをLINE OUTPUTS端子から出力することができます。この場合は、LINE OUTPUTS 1、3、5からはLチャンネル、LINE OUTPUTS 2、4、6からはRチャンネルの音声出力されます。

内部ミキサーでミックスする

1. フロントパネルのMIX LEVELボタンを押して、“LEVEL”画面（レベル設定画面）を表示します。

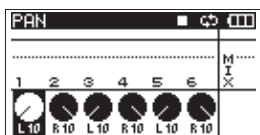


2. この画面でチャンネル“1”～“6”のミックスレベル、および全体のミックスレベルを調節します。

フロントパネルのチャンネル番号ボタン（1～6ボタン）およびMIX [LOCK] ボタンを使って、調節したいチャンネルを選択（反転表示）します。

3. フロントパネルのVALUE/MARKダイヤルで希望の再生レベルになるように調節します。調節範囲は、“0”～“100”（初期値：“100”）です。

4. 次にフロントパネルのMIX PANボタンを押して、“PAN”画面（パンポット設定画面）を表示します。



5. この画面で各チャンネルのパンポットを調節します。チャンネル番号ボタン（1～6ボタン）を使って、調節したいチャンネルを選択（反転表示）します。

メモ

複数チャンネルを連動して同時に操作することも可能です。（→ 51ページ「複数チャンネルを同時に設定する（GANG）」）

6. VALUE/MARKダイヤルで希望するステレオ定位になるように調節します。調節範囲は、“L10”～“L1”（左）、“0”（センター）、“R1”～“R10”（右）です。（初期値：奇数チャンネル“L10”、偶数チャンネル“R10”）

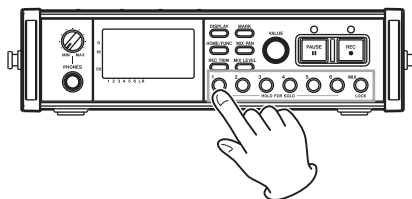
7. 設定が終了したら、フロントパネルのHOME/DISPボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

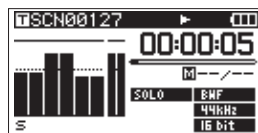
ステレオトラック再生時は、この機能は働きません。

ソロ機能を使う

フロントパネルのチャンネル番号ボタン（1～6ボタン）を長押しすると、該当するチャンネルのソロモニターができます。



ソロモニター中は、ホーム画面上の“SOLO”が点灯し、該当チャンネルの“S”アイコンが点灯します。



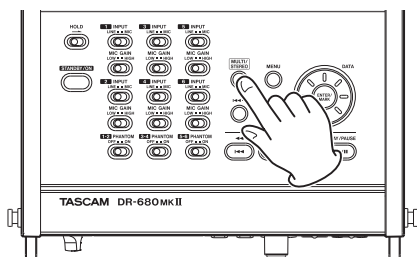
ソロモニターをオフするには、再度該当チャンネルのチャンネル番号ボタン（1～6ボタン）を長押しします。

メモ

ソロモニターは、ヘッドホンまたは内蔵スピーカーでのみ行うことができます。

ステレオトラックを再生する

本機は、6トラック+ステレオトラックなど、マルチトラック録音に加えて、ステレオトラックの録音を行うことができます。トップパネルの**MULTI/STEREO**ボタンを押すことにより、再生時に、マルチトラックを再生するのか、ステレオトラックを再生するのかを切り換えることができます。



ステレオトラックを再生しているときは、ホーム画面の**“STEREO”**が点灯します。

再生範囲を設定する

1. **MENU**ボタンを押して、メニュー画面の**“PLAY”**ページを表示します。
2. トップパネルの**DATA**ホイールを使って**“AREA”**項目を選択（反転表示）し、トップパネルの**ENTER/MARK**ボタンを押します。



3. **DATA**ホイールを使って再生範囲を設定します。

選択肢

- SINGLE** : 選択したテイクのみを再生します。
- FOLDER (初期値)** : “**BROWSE**”画面で選択したフォルダー内のテイクを再生します。
- ALL** : MUSICフォルダー内の全テイクを再生することができます。

4. 設定が終了したら、フロントパネルの**HOME/DISP**ボタンを押してホーム画面に戻ります。

BROWSE画面を使って再生範囲のフォルダーを選択する

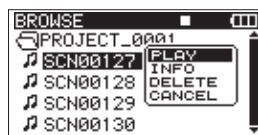
再生範囲が**“FOLDER”**のとき、“**BROWSE**”画面でテイクを再生すると、選択したテイクを含むフォルダーが再生範囲になります。

1. **MENU**ボタンを押して、メニュー画面の**“GENERAL”**ページを表示します。
2. トップパネルの**DATA**ホイールを使って**“BROWSE”**項目を選択（反転表示）し、トップパネルの**ENTER/MARK**ボタンを押します。
“**BROWSE**”画面が表示されます。
3. **DATA**ホイールを使って再生したいテイクが入っているフォルダーを選択（反転表示）します。

メモ

“**BROWSE**”画面でのナビゲーション操作については、40ページ「**BROWSE**画面内のナビゲーション」をご覧ください。

4. トップパネルの**MARK** (▶▶) ボタンを押します。
5. 再生したいテイクを選択（反転表示）します。
6. **ENTER/MARK**ボタンを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。



DATAホイールを使って**“PLAY”**を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンを押します。

ホーム画面に戻り、選択したテイクが再生されます。再生範囲が**“FOLDER”**に設定されていた場合は、選択したテイクを含むフォルダーが再生範囲になります。

サーチスピードを設定する



1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“PLAY”ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“SEARCH SPEED”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。



3. DATAホイールを使ってサーチスピードを“x2”（2倍）、“x4”（4倍）、“x8”（8倍、初期値）、“x10”（10倍）の中から選択します。
4. 設定が終了したら、フロントパネルのHOME/DISPボタンを押してホーム画面に戻ります。

繰り返し再生する（リピート）


1つのテイクを繰り返して再生する、またはフォルダー内の複数のテイクを繰り返して再生することができます。

1. ホーム画面表示中にフロントパネルのFUNCTIONボタンを押して、ファンクション画面を表示します。
2. フロントパネルのVALUE/MARKダイヤルでカーソル（“”アイコン）を移動して“REPEAT”項目を選択します。
3. VALUE/MARKダイヤルを押すと、リピート再生機能のオン/オフを行います。
リピート再生機能がオンになっていると“”アイコンが反転表示（黒地に白抜き文字）します。



4. 設定が終了したら、フロントパネルのHOME/DISPボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

リピート機能がオンの時には、ホーム画面上に“”アイコンが表示されます。

繰り返し再生を行う範囲は、44ページ「再生範囲を設定する」で設定した範囲となります。

第7章 パソコンと接続する

本機をパソコンと付属のUSBケーブルで接続することで、本機のSDカードの中のオーディオファイルをパソコンに取り出したり、パソコンの中の音声ファイルを本機に取り込んだりすることができます。

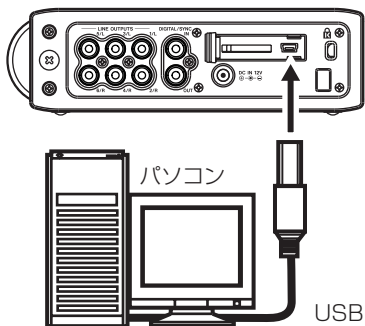
本機で取り扱うことができる音声ファイル形式は、以下の通りです。

MP3 :

96k/128k/192k/320kbps, 44.1k/48kHz

WAV / BWF :

44.1k/48k/96k/192kHz, 16/24ビット

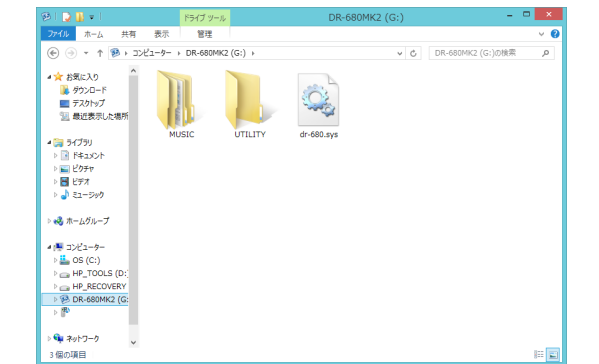


パソコンのディスプレイ上に、本機が《DR-680MK2》というボリュームラベルの外部ドライブとして表示されます。

Windowsの場合は、《マイコンピュータ》を開くと、《DR-680MK2》という名称のドライブが表示されます。

Mac OS Xの場合は、デスクトップ上に《DR-680MK2》という名称のドライブが表示されます。

《DR-680MK2》という名称のドライブをクリックすると、以下の画面が表示されます。



メモ

本機とパソコンをUSB接続する代わりに、本機からSDカードを取り外して直接（あるいはカードアダプターを使って）パソコンにセットしても、同じ操作ができます。

本機にSDカードが正しく挿入されていることを確認してください。

SDカードが正しく挿入されていない状態でUSB接続を行うと、ディスプレイに“Can't Save Data”とポップアップメッセージが表示されます。

接続すると本機のディスプレイに“USB connected”が表示されます。



注意

USB接続中は、本機の操作はできません。

パソコンへファイルを取り出す

《MUSIC》フォルダーを開き、パソコンに取り出したいファイルを任意の場所にドラッグ&ドロップします。

パソコンからファイルを取り込む

パソコンの任意の音声ファイルを《MUSIC》フォルダーの直下に作成されたフォルダーにドラッグ&ドロップします。

パソコンからファイルを取り込んだ場合は、“BROWSE”画面で、ファイルをコピーしたフォルダーに対して“REBUILD”を実行してください。(→ 41ページ「REBUILD (リビルド)」)

“REBUILD”を実行することにより、コピーしたファイルが本機で再生可能となります。

“REBUILD”を実行する前に、ファイル/フォルダー名は、半角英数字になっていることをご確認ください。

メモ

- 本機で作成したファイル/フォルダー名を、パソコンを使って変更すると、本機でテイクとして認識できなくなります。ご注意ください。
- 本機がサポートしているファイル形式以外のファイルは、“REBUILD”をしても本機器で再生できません。

ヒント

- パソコン上の操作で、《MUSIC》フォルダー内を管理することができます。
- 《MUSIC》フォルダー内にサブフォルダーを作成することができます。サブフォルダーは、《MUSIC》フォルダーの下に1階層まで作成できます。本機では、2階層以下のサブフォルダーおよびファイルは認識できません。
- 本機では、フォルダー内のみを再生範囲に設定することもできますので、取り込む楽曲のカテゴリーや演奏者別に整理しておくとう便利です。
- 本機で読み込みできるファイル/フォルダー名は、半角英数字のみです。
- サブフォルダーや楽曲に希望の名前を付けておくと、本機のホーム画面上やブラウズ画面上に表示されます。
- パソコン上で《MUSIC》フォルダーの直下に作成したフォルダー名は、16文字以上でも動作に問題はありませんが、15文字を越える部分は表示できません。本機では先頭から15文字までが表示されます。

パソコンとの接続を解除する

パソコンと本機の接続を外すときは、パソコンから本機を正しい手順で切り離してから、USBケーブルを外します。

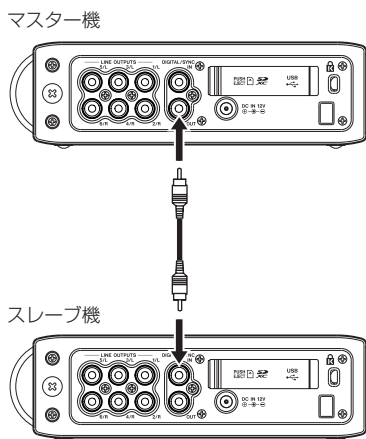
本機の電源がスタンバイ状態になります。

パソコン側での接続解除方法については、パソコンの取扱説明書をご覧ください。

第8章 カスケード接続

カスケード操作の準備

1. マスター機のDIGITAL/SYNC OUT端子と、スレーブ機のDIGITAL SYNC IN端子を市販の同軸デジタルケーブルで接続します。



2. マスター機とスレーブ機で、以下のメニュー画面の設定を行います。

■ RECページ

- FORMAT項目：
マスター機、スレーブ機とも、同じ設定にすることをお勧めします。
- SAMPLE項目：
マスター機、スレーブ機とも、同じ設定にすることをお勧めします。
- PAUSE項目：
マスター機、スレーブ機とも、必ず同じ設定にしてください。

■ PLAYページ

- AREA項目：
カスケード再生を行う場合は、マスター機、スレーブ機とも、必ず同じ設定にしてください。

■ SYSTEMページ

- CASCADE項目：
マスター機は“MASTER”、スレーブ機は“SLAVE”に設定します。

■ ファンクション画面

- REPEAT項目：
カスケード再生を行う場合は、マスター機、スレーブ機とも、必ず同じ設定にしてください。
- PRE.REC項目：
マスター機、スレーブ機とも、必ず同じ設定にしてください。

3. マスター機、スレーブ機ともHOMEボタンを押してホーム画面を表示します。
4. マスター機、スレーブ機ともSTOPボタンを押して停止状態にします。

カスケード録音をする

停止中にフロントパネルのRECボタンを押すと、マスター機、スレーブ機ともに録音を開始します。
録音中にトップパネルのSTOPボタンを押すと、マスター機、スレーブ機ともに録音を停止します。
フロントパネルのPAUSEボタンを押すと、マスター機、スレーブ機ともに録音を一時停止します。
一時停止中にフロントパネルのRECボタンを押すと、録音を再開します。
一時停止中にPAUSEボタンまたはSTOPボタンを押すと、録音を停止します。

カスケード再生をする

停止中にトップパネルのPLAY/PAUSEボタンを押すと、マスター機、スレーブ機ともに、現在位置から再生を開始します。
再生中にPLAY/PAUSEボタンを押すと、マスター機、スレーブ機ともに、現在の位置で一時停止します。

カスケード操作を止める

メニュー画面の“SYSTEM”ページの“CASCADE”項目設定を“OFF”にします。

カスケード接続時の注意

- カスケード機能がオンのときは、オートレック機能は動きません。オートレックがオンのときにカスケード機能をオンにすると、オートレック機能が自動的にオフになります。このとき、カスケード機能をオフにしても、オートレック機能はオフのままです。カスケード機能をオフにしたときは、必要に応じて、オートレック機能を再度オンにしてください。
- カスケード機能を使う場合は、マスター機とスレーブ機において、メニュー画面の“REC”ページの“PAUSE”項目を同じ設定にしてください。この設定がマスター機とスレーブ機で異なっている場合は、録音一時停止後の動作が一致せず、トランスポートのコントロールが正しく行われません。
- 録音に使用しているカードの種類がマスター機とスレーブ機で異なる場合は、メニュー画面の“REC”ページの“PAUSE”項目が“NEW TAKE”に設定されているときに、フロントパネル RECボタン操作で録音開始が同時に行われない場合があります。マスター機とスレーブ機で異なる種類のカードを使用している、またはマスター機とスレーブ機で録音ファイルフォーマット、サンプリング周波数が異なっていると、それぞれの機器において処理時間が異なるためです。正しくカスケード録音を行うためには、マスター機とスレーブ機のカードを同じ種類にする、マスター機とスレーブ機の録音ファイルフォーマット、サンプリング周波数を同じにする、あるいは、録音一時停止後、十分に時間をおいてから、RECボタンを押して録音を開始してください。
- カスケード動作を行う場合は、マスター機、スレーブ機ともホーム画面を表示させておいてください。メニュー表示のままだと、正しくカスケード動作することができません。
- 再生時のカスケード動作は、録音したテイクの確認用途を目的としています。同期再生を保証するものではありません。

MSマイクデコード機能を使う

本機では、MSマイクを接続してデコードして録音する、もしくはデコードせずに録音してモニター出力でデコード結果を確認することができます。

メモ

デュアル録音機能がオンの時は、MSマークデコード機能は使用できません。(→ 34ページ「デュアル録音の設定をする」)

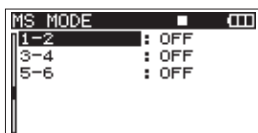
MSマイクを接続する

本機のMSデコード機能を使う場合は、Mid側を奇数のチャンネルに、Side側を偶数のチャンネルに、それぞれ接続します。MidとSideを逆に接続すると、正しくデコードすることができません。

(例) Midを3チャンネル、Sideを4チャンネルに接続する。

MSデコードモードを設定する

メニュー画面の“SYSTEM”ページの“MS MODE”項目を選択(反転表示)し、“MS MODE”画面を表示します。



MSマイク接続時のデコードモードを設定します。

1-2、3-4、5-6の各ペアチャンネルのそれぞれ個別に設定が可能です。

OFF (初期値) :

通常モードでの録音・再生を行います。

INPUT :

デコードしながら録音する時に使用するモードです。再生は、通常の再生を行います。

MONITOR :

あとからデコードする目的で、MSマイクの出力をデコードせずに録音する時、録音時にモニターする場合に使用するモードです。

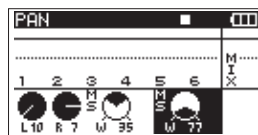
すでにデコードせずに録音したテイクをデコードして再生する場合にも使用します。その場合は、メニュー画面の“VO”ページの設定で“LINE OUT”項目を“MIX”に設定する必要があります。

メモ

録音中あるいは再生中に“MS MODE”画面の設定を変えることはできません。必ず停止状態(トランスポートアイコンが“□”の表示)にしてから設定を変更してください。

MSデコードして録音する

1. “MS MODE”画面にて、デコードモードを“INPUT”に設定しておきます。
2. フロントパネルのMIX PANボタンを押して“PAN”画面(パンポット設定画面)を表示し、音の広がり度合いを調整する“WIDE”の設定を行います。

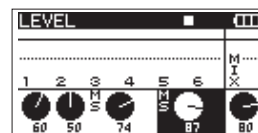


フロントパネルのチャンネル番号ボタン(1~6ボタン)の内、“MS MODE”画面にて“INPUT”に設定してあるチャンネルのいずれかのボタン(3-4チャンネルに設定してあれば3ボタンまたは4ボタン)を押して、調整したいチャンネルを選択(反転表示)します。

VALUE/MARKダイヤルで適切な広がり度合いになるように調節します。

調節範囲は、“0”~“100”です。“0”でMidが100%となり、数字が大きいくほどSideの割合が大きくなります。“100”でSideが100%です。(初期値：“0”)

3. フロントパネルのMIX LEVELボタンを押して“LEVEL”画面(レベル設定画面)を表示し、デコーダーの出力の調節を行います。



フロントパネルのチャンネル番号ボタン(1~6ボタン)の内、“MS MODE”画面にて“INPUT”に設定してあるチャンネルのいずれかのボタン(3-4チャンネルに設定してあれば3ボタンまたは4ボタン)を押して、調整したいチャンネルを選択(反転表示)します。

VALUE/MARKダイヤルで適切なレベルに調節します。調節範囲、“0”~“100”です。数字が小さいほど出力が絞られます。(初期値：“100”)

メモ

デコードせずに録音(録音トラックにMidとSideをそのまま記録)しておいたテイクを再生時にデコードすることも可能です。

再生時にデコードする場合は、ステレオミックスでの出力になります。

デコードせずに録音する場合は、デコードモードの設定を“OFF”または“MONITOR”にしておきます。

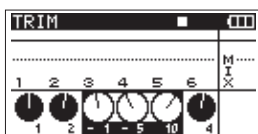
“MONITOR”にしておくと、録音中にデコード後の音をモニターすることができます。

複数チャンネルを同時に設定する (GANG)

“TRIM”画面、“PAN”画面、“LEVEL”画面の各画面で連続する複数のチャンネルを同時に連動させて操作すること (GANG動作) が可能です。

GANG動作させるチャンネル範囲の両端のチャンネル番号ボタン (1～6ボタン) を同時に押すことでチャンネル範囲を設定します。

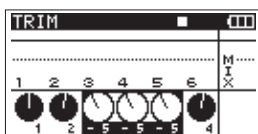
たとえば、チャンネル“3”～“5”でGANG動作させたい場合は、3と5のボタンを同時に押すと、図のようにチャンネル“3”～“5”の部分が反転表示になり同時にレベルを調整することができます。



GANG動作モードは、複数の組み合わせが設定可能です。ただし、1つのチャンネルを複数のGANG動作モードに含むような設定はできません。

選択 (反転表示) したGANG動作モードに含まれるどれか1つのチャンネルが上限値または下限値に到達した場合、そのままVALUE/MARKダイヤルを回し続けても全チャンネルの値の増加または減少をしなくなります (チャンネル間の調節値の差が保持されます)。

複数のチャンネルを選択した状態でVALUE/MARKダイヤルを長押しすると、選択 (反転表示) したGANG動作モードに含まれる全てのチャンネルの設定値を、その中でもっとも小さい値に合わせることができます。



GANG動作モードは、次のいずれかの操作を行うと解除されます。

- GANG動作モードに設定されているチャンネル選択と同じボタンを同時に押す。
- 電源をスタンバイにする。
- MSデコードモードの変更をする。
- イニシャライズを行う。

GANG動作モードは、“TRIM”画面、“PAN”画面、“LEVEL”画面で共通に設定されます。

ただし、“PAN”画面および“LEVEL”画面では、MSデコードモードに設定したチャンネルをGANG動作モードに設定および解除をすることはできません。

メモ

- MSデコードモードに設定したチャンネルとMSデコードモードに非設定のチャンネルを1つのGANG動作モードに設定することはできません。それぞれで別々のGANG動作モードを設定してください。
複数のMSデコードモードに設定したチャンネルをまたいでGANG動作モードに設定することはできません。
MSデコードモードに設定したチャンネルを含む範囲を指定した場合、MSデコードモードに設定したチャンネルの組み合わせの内でもっとも小さいチャンネル番号を持つMSデコードモードのチャンネルがGANG動作モードに設定されます。
指定した範囲にMSデコードモードの片方のチャンネルだけが含まれる場合は、GANG動作モードは設定されません。
- デュアル録音機能がオンの時は、GANG動作モードは使用できません。(→ 34ページ「デュアル録音の設定をする」)

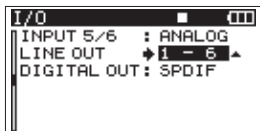
出力設定

アナログ出力とデジタル出力の設定を行います。

アナログ出力設定

各LINE OUTPUTS端子から各トラックの音をダイレクトに出力するか、ステレオミックスの音を出力するかを設定します。ステレオミックスの音を出力する設定にした場合は、ステレオミックスのL/Rの音声がLINE OUTPUTS端子の1/2、3/4、5/6から出力されます。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“**I/O**” ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“**LINE OUT**”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。



3. DATAホイールを使って“**1-6**”もしくは“**MIX x3**”を選択します。

選択肢

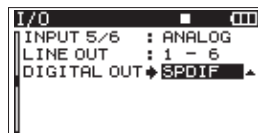
- 1-6**（初期値）：各トラックの音声を直接出力します。
- MIX x3**：ステレオミックスの音声を出力します。

4. 設定が終了したら、フロントパネルのHOME/DISPボタンを押してホーム画面に戻ります。

デジタル出力設定

デジタル出力のフォーマットを“**SPDIF**”にするか、“**AES/EBU**”にするかを設定します。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“**I/O**” ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“**DIGITAL OUT**”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。



3. DATAホイールを使って“**SPDIF**”もしくは“**AES/EBU**”を選択します。

選択肢

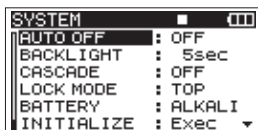
- SPDIF**（初期値）：SPDIFフォーマットで出力します。
- AES/EBU**：AES/EBUフォーマットで出力します。

4. 設定が終了したら、フロントパネルのHOME/DISPボタンを押してホーム画面に戻ります。

システム設定

使用環境や条件に合わせて本機を快適に使うためのさまざまな設定、本機の初期化、および本機のシステム情報の表示を、メニュー画面の“SYSTEM”ページで行います。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“SYSTEM”ページを表示します。



“SYSTEM”ページの各項目で、以下の設定を行うことができます。

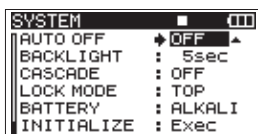
トップパネルのMARK (◀◀ / ▶▶) ボタンと ENTER/MARKボタン、およびDATAホイールを使って、各項目の設定をします。

2. 設定が終了したら、フロントパネルのHOME/DISPボタンを押してホーム画面に戻ります。

電源のオートオフ設定

“AUTO OFF”項目で、電池駆動時に、最後に動作もしくは操作してから自動的に電源がオフになるまでの時間を設定します。

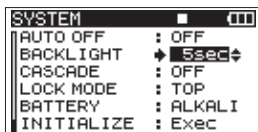
選択肢：“OFF”（初期値、自動オフしない）、“3min”、“5min”、“10min”、“30min”



バックライトのオートオフ設定

“BACK LIGHT”項目で、電池駆動時に、最後に操作してからバックライトが消えるまでの時間を設定します。

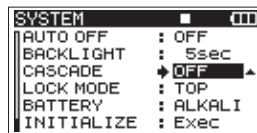
選択肢：“OFF”、“5sec”（初期値）、“10sec”、“15sec”、“30sec”



カスケードの設定

“CASCADE”項目で、カスケードの設定を行います。

選択肢：“OFF”（初期値、カスケードしない）、“MASTER”、“SLAVE”

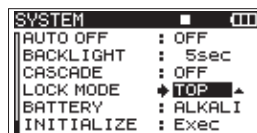


ロック機能範囲の設定

“LOCK MODE”項目で、ロック機能範囲の設定を行います。フロントパネルのMIX [LOCK] ボタンを長押ししたときのパネル操作を受け付けなくするロック機能の範囲を設定します。

選択肢

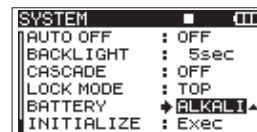
- TOP（初期値）：トップパネルのボタン操作をロックします。
- FRONT：フロントパネルのボタン操作をロックします。
- T+F：フロントパネルおよびトップパネル両方のボタン操作をロックします。



電池の種類の設定

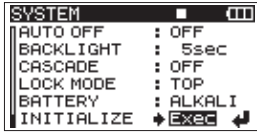
“BATTERY TYPE”項目で、使用する電池の種類を設定します。この設定は、電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量の識別に使用されます。

選択肢：“ALKALI”（初期値）、“NiMH”（ニッケル水素電池）、“LiFeS2”（リチウム乾電池）

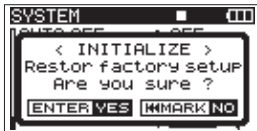


初期設定に戻す

“INITIALIZE”項目でイニシャライズを実行することにより、本機のさまざまな設定を初期設定状態に戻すことができます。



“Exec”を選択（反転表示）しているときにトップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、以下の確認メッセージがポップアップ表示されます。

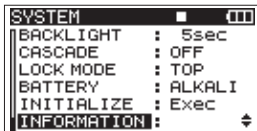


ENTER/MARKボタンを押すと、イニシャライズを実行します。

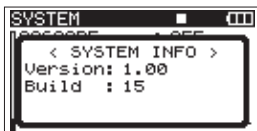
イニシャライズを終了すると、メニュー画面の“SYSTEM”ページに戻ります。

システム情報を見る

“INFORMATION”項目で、本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示します。



トップパネルのENTER/MARKボタンを押すと、システムファームウェアのバージョン情報とビルド番号をポップアップ表示します。



“INFORMATION”画面表示中にENTER/MARKボタンを押すと、メニュー画面の“SYSTEM”ページに戻ります。

SDカードをフォーマットする

セットされているSDカードをフォーマットします。

注意

- フォーマットを行うと、SDカード上の全ての情報（テイク/フォルダーなど）が消去されます。
- フォーマットの実行は、ACアダプター駆動時、もしくは電池の残量が十分な状態で行ってください。フォーマット中に電池切れになると、正常なフォーマットができない場合があります。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“CARD”ページを表示します。
2. トップパネルのDATAホイールを使って“FORMAT”項目を選択（反転表示）し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。以下の画面を表示します。



3. 再度ENTER/MARKボタンを押して、以下の画面を表示します。



4. DATAホイールを使って、以下の中から設定します。
選択肢：“QUICK FORMAT”（初期値）、
“ERASE FORMAT”

メモ

“ERASE FORMAT”を実行すると、繰り返し使用で書き込み性能が劣化したSDカードを復活させる可能性があります。

5. ENTER/MARKボタンを押すと、確認メッセージがポップアップ表示されます。



[“QUICK FORMAT” 選択時]



[“ERASE FORMAT” 選択時]

- 再度ENTER/MARKボタンを押すと、フォーマットを実行します。

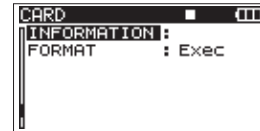
メモ

- “ERASE FORMAT” を実行中にトップパネルのMARK (H◀) ボタンを押すと、中断 (CANCEL) できます。その場合は、“QUICK FORMAT” と同じになります。
- フォーマットが完了すると、メニュー画面の“CARD”ページに戻ります。

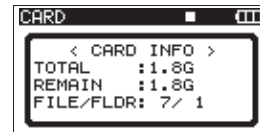
カード情報を見る

“CARD” ページでは、挿入しているSDカードの使用状況を表示します。

- トップパネルのMENUボタンを押して、メニュー画面の“CARD”ページを表示します。
- トップパネルのDATAホイールを使って“INFORMATION”項目を選択 (反転表示) し、トップパネルのENTER/MARKボタンを押します。



SDカードの使用状況をポップアップ表示します。



- TOTAL** : SDカードの総メモリー容量を表示します。
- REMAIN** : SDカードの残容量を表示します。
- FILE/FLDR** : MUSICフォルダー内の総ファイル数と総フォルダー数を表示します。

第10章 メッセージ

以下にポップアップメッセージの一覧表を示します。

DR-680MKIIでは、状況に応じてポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときに、この表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
Battery Empty	電池の残量がありません。電池を交換してください。
MBR Error Init CARD	SDカードが正常にフォーマットされていないか、カードが壊れている可能性があります。カードを交換するか、このメッセージが表示されている状態でトップパネルの ENTER/MARK ボタンを押すと、FATフォーマットが実行されます。FATフォーマットが実行されるとカード内のデータは、全て消去されます。
Format Error Format CARD	SDカードが正常にフォーマットされていないか、カードが壊れている可能性があります。このメッセージは、USB接続したパソコンでFATフォーマットした場合や未フォーマットのカードを挿入した場合にも表示されます。フォーマットは、必ずDR-680MKII本体で行ってください。カードを交換するか、このメッセージが表示されている状態でトップパネルの ENTER/MARK ボタンを押すと、FATフォーマットが実行されます。FATフォーマットが実行されるとカード内のデータは、全て消去されます。
File Not Found Make Sys File	本機を使用するために必要なシステムファイルがありません。このメッセージが表示されている状態でトップパネルの ENTER/MARK ボタンを押すと、システムファイルが作られます。
Invalid SysFile Make Sys File	本機を使用するために必要なシステムファイルが正常ではありません。このメッセージが表示されている状態でトップパネルの ENTER/MARK ボタンを押すと、新しいシステムファイルが作られます。
Invalid Card Change Card	SDカードが正常でない可能性があります。カードを交換してください。256GB以上のSDXCカードでは、このメッセージが表示されます。
Protected Card Change Card	MUSICフォルダーなど所定のフォルダー、ファイルがない状態でSDカードが書き込み禁止になっています。プロテクトスイッチを解除し、電源を入れなおすか、フォーマットしてください。
Write Timeout	SDカードへの書き込みが間に合いませんでした。ファイルをパソコンへバックアップの上、本機でイレースフォーマットを実行してください。SDカードをフォーマットしても発生する場合は、SDカードの転送レートが不足しています。SDカードを変更してください。
Card Full	SDカードの残容量がありません。不要なテイクを削除するかパソコンへ移動してください。
Max File Size	テイク中のファイルのサイズが2GBを超えました。もしくは録音時間が24時間を超えました。
File Full	フォルダーとファイルの総数が制限値（5000個）を超えました。不要なテイクを削除するかパソコンへ移動してください。
Take Full	テイクの総数が制限値（1000個）を超えました。不要なテイクを削除するかパソコンへ移動してください。
Card Error	SDカードを正常に認識できません。カードを交換してください。
File Protected	リードオンリーファイルが含まれるため、テイクを削除できません。
No Card	SDカードがセットされていません。録音可能なSDカードを挿入してください。
File Not Found in TAKE	テイク内のオーディオファイルが見つかりません。パソコンでオーディオファイルを削除、名称変更した可能性があります。ファイルを元に戻すか、ブラウザ画面でテイクを削除してください。
DIN unlock	DIGITAL/SYNC IN 端子からの入力を選択しているとき、デジタル入力の接続が切れたか、サンプリング周波数が合っていません。 DIGITAL/SYNC IN 端子に、外部デジタル機器が正しく接続されていることを確認してください。また、本機と外部デジタル機器のサンプリング周波数が合っていることを確認してください。このメッセージは、 STOP ボタンを押すことで消すことができます。このとき、 DIGITAL/SYNC IN 端子からの入力を使用することはできませんが、録音は可能です。録音中にこのメッセージが出た場合は、ノイズが録音される可能性があります。

メッセージ	内容と対処方法
DIN lock	<p>“DIN unlock” 状態が解消されました。DIGITAL/SYNC IN端子からの入力を使用可能になります。</p> <p>このメッセージは、STOPボタンを押すことで消すことができます。</p> <p>録音中にこのメッセージが出た場合は、ノイズが録音される可能性があります。</p>
Not Continued	<p>これらのエラーが出た場合は、本体の電源を入れなおしてください。</p> <p>電源を切ることができない場合は、電池や専用ACアダプター（GPE248-120200-Z）を取り外してください。</p> <p>これらのエラーが頻繁に発生する場合は、ティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。</p>
File Error	
Cant Save Data	
Player Error	
Device Error	
Writing Failed	
Sys Rom Err	
System Err 50	
System Error 1	
System Error 2	
System Error 3	
System Error 4	
System Error 5	
System Error 6	
System Error 7	
System Error 8	
System Error 9	

第11章 トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご連絡ください。

電源が入らない。

- 電池が消耗していませんか？
- 電池の⊕、⊖を間違えてセットしていませんか？
- 付属の専用ACアダプター（GPE248-120200-Z）の電源プラグがしっかりと差し込まれていますか？

本体で操作できない。

- ロック機能がオンになっていませんか？

SDカードを認識しない。

- SDカードがしっかりと挿入されているか確認してください。

再生できない。

- WAV / BWFファイルの場合は、本機が対応しているサンプリング周波数であるかどうかを確認してください。
- MP3ファイルの場合は、本機が対応しているビットレートであるかどうかを確認してください。

内蔵スピーカーから音が出ない。

- ヘッドホンをつないでいませんか？
- “SPEAKER” 項目が “OFF” になっていませんか？
- 本機の出カレベル設定が最小になっていませんか？

ヘッドホンから音が出ない。

- 本機のPHONESつまみ設定が最小になっていませんか？

モニターシステムから音が出ない。

- モニターシステムは、きちんと接続されていますか？
- モニターシステムの音量が最小になっていませんか？
- 本機の出カレベル設定が最小になっていませんか？

録音できない。

- 接続をもう一度確認してください。
- 入力設定をもう一度確認してください。
- 録音レベルが低くなっていませんか？
- SDカード容量がいっぱいになっていませんか？
- ファイル数、またはテイク数が最大数に達していませんか？

録音レベルが低い。

- “TRIM” 画面の入カレベル調節が小さくなっていませんか？
- MIC GAINスイッチの設定が「LOW」になっていませんか？
- 接続した外部機器の出カレベルが低くなっていませんか？

録音しようとする音が歪んで聴こえる。

- “TRIM” 画面の入カレベル調節が大きくなっていませんか？
- MIC GAINスイッチの設定が「HIGH」になっていませんか？

テイクが消去できない。

- SDカードにライトプロテクトがかかっていませんか？
- パソコンで読み取り専用を設定したファイルをコピーしたものを消去しようとしていませんか？

パソコン上に本機のファイルが表示されない。

- 本機がUSB端子経由でパソコンに接続されていますか？
- USBハブを使っていませんか？
- 本機が録音中、または録音待機中になっていませんか？

定格

記録メディア

- SDカード (64MB ~ 2GBのみ)
- SDHCカード (4GB ~ 32GB)
- SDXCカード (48GB ~ 128GB)

録音再生フォーマット

- BWF : 16/24ビット、44.1k/48k/96k/192kHz
- WAV : 16/24ビット、44.1k/48k/96k/192kHz
- MP3 : 96k/128k/192k/320kbps、44.1k/48kHz

トラック数

6トラック+ステレオ

- BWF : 44.1k/48k/96kHz
- WAV : 44.1k/48k/96kHz
- MP3 : 44.1k/48kHz

2トラック

- BWF : 192kHz
- WAV : 192kHz

ファイルモード

- BWF : モノラル、ステレオ、6チャンネル
- WAV : モノラル、ステレオ、6チャンネル
- MP3 : モノラル、ステレオ

入出力定格

アナログオーディオ入出力定格

MIC/LINE INPUTS端子

コネクター :

- XLR-3-31 (1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)
- 6.3mm (1/4") TRS標準ジャック
- (Tip : HOT、Ring : COLD、Sleeve : GND)

INPUT切り換えスイッチMIC時 (ファントム電源対応)

入力インピーダンス : 2.4kΩ

基準入力レベル

- GAIN LOW : -20dBu (0.11V)
- GAIN HIGH : -44dBu (6.91mV)

最大入力レベル

- GAIN LOW : +3dBu (1.55V)
- GAIN HIGH : -21dBu (0.098V)

最小入力レベル

- GAIN LOW : -51.5dBu (2.0mV)
- GAIN HIGH : -75.5dBu (0.1mV)

INPUT切り換えスイッチLINE時

入力インピーダンス : 10kΩ以上

- 基準入力レベル : +4dBu (1.23V)
- 最大入力レベル : +24dBu (12.3V)
- 最小入力レベル : -27.5dBu (0.05V)

LINE OUTPUTS端子

- コネクター : RCAピンジャック
- 出力インピーダンス : 200Ω
- 規定出力レベル : -10dBV (0.3V)
- 最大出力レベル : +6dBV (2.0V)

PHONES端子

- コネクター : 1/4" (6.3mm) ステレオ標準ジャック
- 最大出力 : 50mW + 50mW (32Ω負荷時)

内蔵スピーカー

500mW (モノラル)

デジタルオーディオ入出力定格

DIGITAL/SYNC IN端子

コネクター : RCA ピンジャック
フォーマット : IEC60958-3 (S/PDIF)、またはAES3-2003/IEC60958-4 (AES/EBU) 自動判別

DIGITAL/SYNC OUT端子

コネクター : RCA ピンジャック
フォーマット : IEC60958-3 (S/PDIF)、またはAES3-2003/IEC60958-4 (AES/EBU) 切り換え

コントロール入出力

USB端子

コネクター : mini Bタイプ
フォーマット : USB2.0 HIGH SPEED (480Mbps)

オーディオ性能

周波数特性

44.1kHz : 20-20kHz +0.5/-1.5dB
48kHz : 20-20kHz +0.5/-0.5dB
96kHz : 20-40kHz +0.5/-1.0dB
192kHz : 20-80kHz +0.5/-5.0dB
(LINE IN to LINE OUT、Input Level=FS-1dB)

歪率

0.007% (1kHz、LINE IN to LINE OUT)

S/N比

100dB (A-Weight、LINE IN to LINE OUT)

一般

電源

単3形電池8本 : (アルカリ乾電池、ニッケル水素電池またはリチウム乾電池)

ACアダプター : (GPE248-120200-Z (100V~240V、50/60Hz)、付属)

消費電力

9W (ファントム電源オン、専用ACアダプター (GPE248-120200-Z) 使用時)

電池持続時間 (連続使用時)

- アルカリ乾電池 (EVOLTA) 使用時

持続時間	備考
約3.5時間	ファントム電源6チャンネル使用時、1チャンネルあたり3mA消費
約4.5時間	ファントム電源2チャンネル使用時、1チャンネルあたり3mA消費
約6時間	ファントム電源未使用時

- ニッケル水素電池 (eneloop) 使用時

持続時間	備考
約4時間	ファントム電源6チャンネル使用時、1チャンネルあたり3mA消費
約4.5時間	ファントム電源2チャンネル使用時、1チャンネルあたり3mA消費
約5.5時間	ファントム電源未使用時

- リチウム乾電池 (Energizer ULTIMATE LITHIUM) 使用時

持続時間	備考
約7.5時間	ファントム電源6チャンネル使用時、1チャンネルあたり3mA消費
約9.5時間	ファントム電源2チャンネル使用時、1チャンネルあたり3mA消費
約11時間	ファントム電源未使用時

外形寸法

216.4 x 56 x 188.4mm (幅 x 高さ x 奥行き)

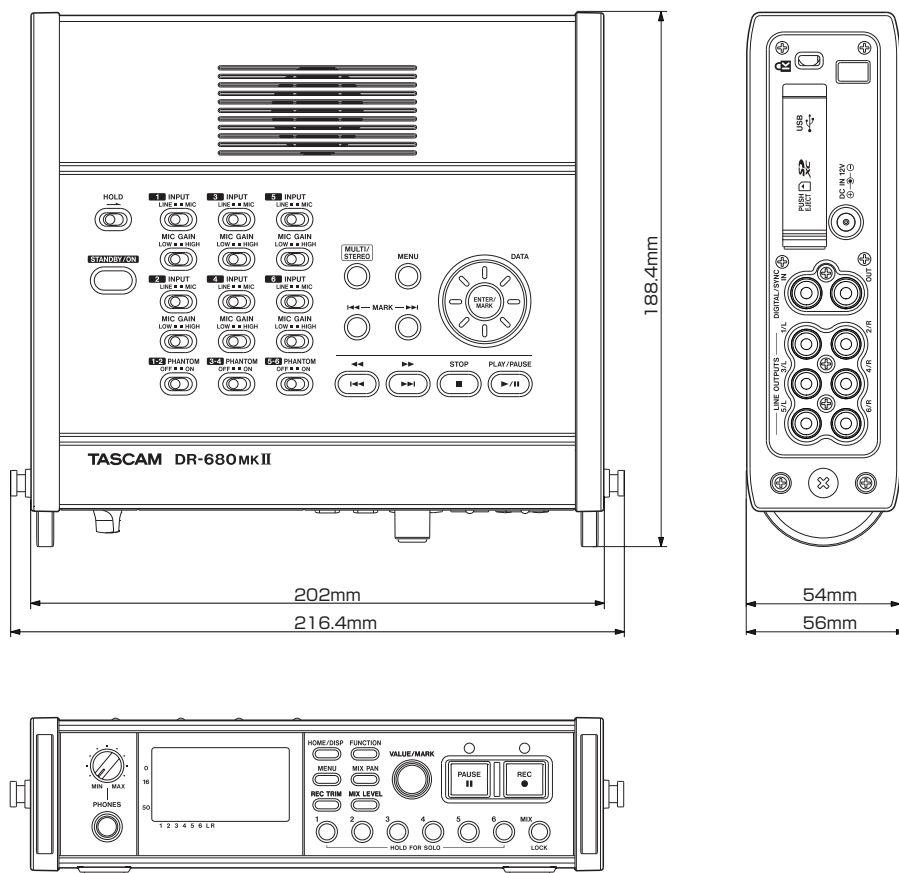
質量

1.2kg (電池を含まず)

動作温度

0~40℃

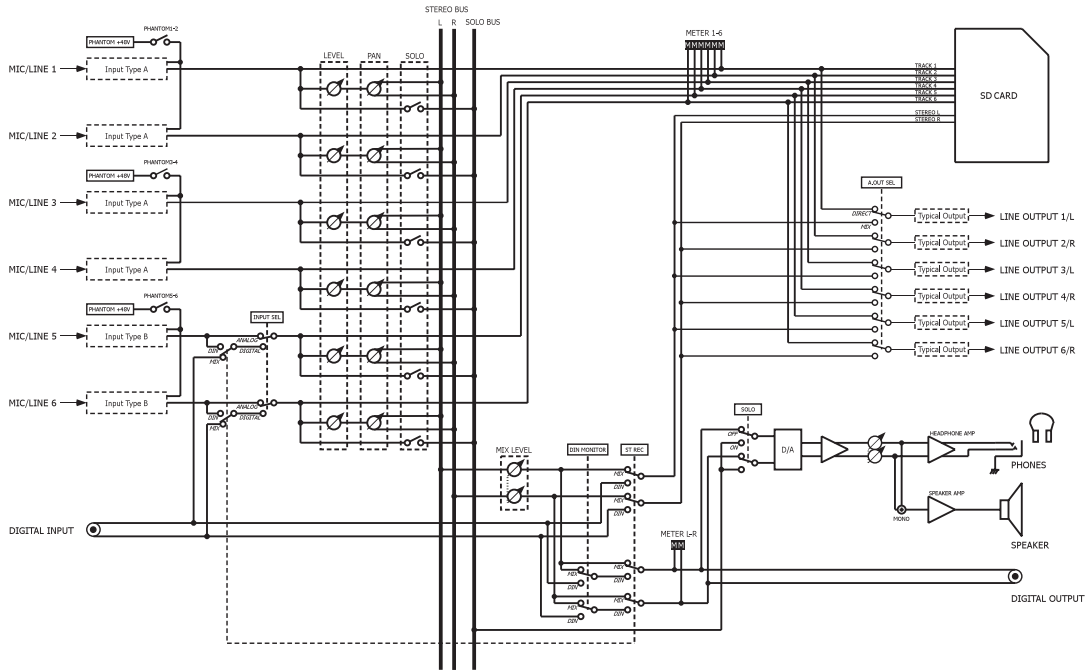
寸法図



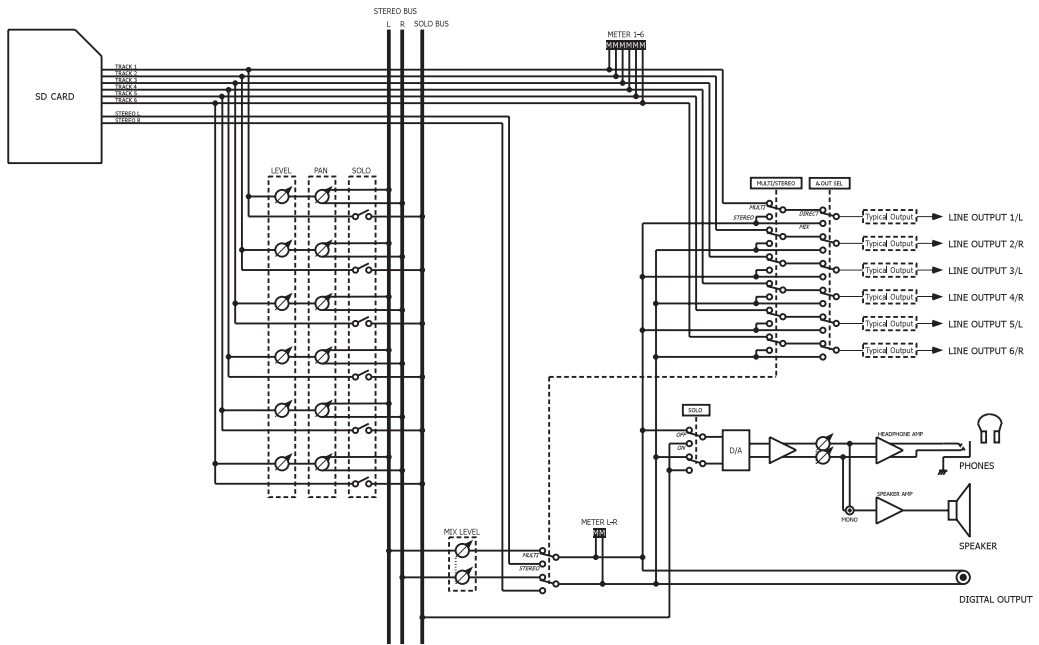
- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

ブロックダイアグラム

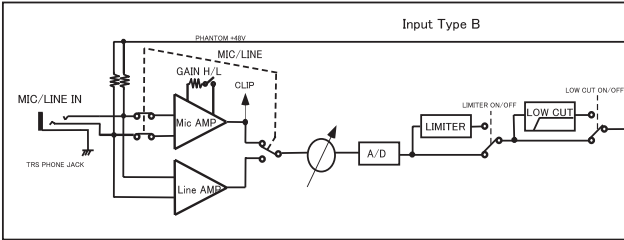
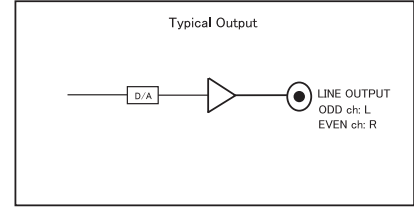
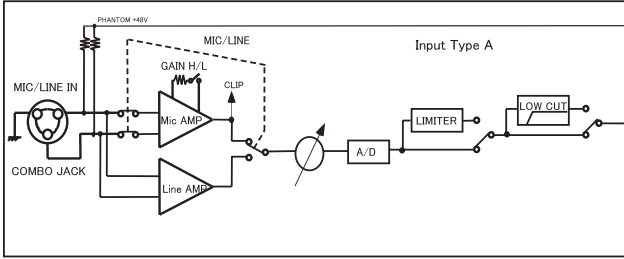
● 録音時



● 再生時



●入出力



無料修理規定 (持ち込み修理)

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
3. ご転居、ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には、保証期間内でも有償修理となります。
 - (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - (2) お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - (4) 接続している他の機器に起因する故障および損傷
 - (5) 業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷

- (6) メンテナンス
 - (7) 本書の提示がない場合
 - (8) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名 (印) の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
 6. 本書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※ この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの (保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



0570-000-809

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、10:00~12:00 / 13:00~17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

- ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、9:30~17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

- ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Printed in China

保証書

品名 および 形名	DR-680MKII		
機番			
保証期間	本体	1年	
お買い上げ日	年 月 日		
お客様	お名前		
	ご住所		

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から上記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

販売店	見本	
	電話	()

